

総務常任委員会委員 各位

企 画 部 長

第 1 回函館市基本構想審議会資料の配付について

このことについて、令和 8 年 5 月 1 3 日に実施いたしました標記会議の資料を、別添のとおり配付させていただきますので、よろしくお願いいたします。

記

1 配付資料

【資料】

資料 1 次期函館市基本構想策定に向けた検討資料

【参考資料】

参考資料 1 - 1 : 函館市総合計画について

参考資料 1 - 2 : 函館市基本構想審議会について

参考資料 2 - 1 : 現函館市総合計画における施策の主な取組状況

参考資料 2 - 2 : 函館市人口ビジョン

参考資料 2 - 3 : 第 3 期函館市活性化総合戦略

参考資料 3 - 1 : 新たな総合計画基本構想策定に係る意見集約結果
について

参考資料 3 - 2 : ウェルビーイング（地域幸福度）指標

参考資料 3 - 3 : 地方創生に関するアンケート調査（概要・調査結果）

※以下についてはすでに公開された資料と同一であり、量が膨大となるため、配付を省略させていただきます。

（函館市ホームページ）

○参考資料 2 - 2 : 函館市人口ビジョン

https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2025022100079/file_contents/hakodate_jinkou_vision_2025.pdf

○参考資料 2 - 3 : 第 3 期函館市活性化総合戦略

https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2025022700309/file_contents/20250219_3.pdf

○参考資料 3 - 3 : 地方創生に関するアンケート調査

概要 https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2024112600109/file_contents/01bu.pdf

調査結果 https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2024112600109/file_contents/02bu.pdf

次期函館市基本構想策定に向けた検討資料

第1章 基本構想の概要

1. 策定の意義
2. 期間
3. 対象区域

第2章 本市を取り巻く状況

1. 社会環境

- (1) 人口減少・少子高齢化の急速な進行
- (2) デジタル化の進展
- (3) グローバル化の拡大
- (4) 環境・エネルギー問題
- (5) 大規模災害への対応

2. 本市の現状・特性

- (1) 概況
- (2) 地域資源

3. 本市の将来展望

- (1) 人口の推移と将来推計
- (2) 経済・産業
- (3) 市民生活
- (4) 土地利用の方向

第3章 まちづくりの視点

1. ウェルビーイングの向上
2. シビックプライドの醸成
3. 多様性・公平性・包摂性の推進
4. 地域資源の価値化と地域経済の循環
5. 選択と集中による未来への投資

第4章 目指すまちの姿

1. 「ふれあいに包まれ、安心して暮らし、子育てができ、
若者が住み続けたいとなるイメージ像」
2. 「まちに活気や賑わいがあり、
ここで仕事をして暮らしていきたいと思えるイメージ像」
(参考：現構想将来像「北のクロスロード HAKODATE
～ともに始める未来を拓く～」)

第5章 実現に向けて

1. 基本方針

- (1) 人にやさしく、住み続けたい・帰ってきたいと思えるまち（ひと）
- (2) 笑顔と活気にあふれ、機能的で暮らしやすいまち（くらし）
- (3) 多様な仕事や働き方を選び、将来を描けるまち（しごと）
- (4) 世界に誇る強みと魅力にあふれる持続可能なまち（都市）

2. 基本施策

- (1) 人にやさしく、住み続けたい・帰ってきたいと思えるまち（ひと）
 - ①安心して子どもを育てる環境づくり
 - ②未来を担うひとを育てる教育の充実
 - ③やさしさと幸せを実感できる郷土づくり
- (2) 笑顔と活気にあふれ、機能的で暮らしやすいまち（くらし）
 - ④健康で安心して暮らせる市民生活の確保
 - ⑤快適で環境にやさしい生活環境の形成
 - ⑥安全で持続可能な都市基盤の整備
- (3) 多様な仕事や働き方を選び、将来を描けるまち（しごと）
 - ⑦多様で柔軟な働き方を実現する雇用環境の充実
 - ⑧地域経済を支える人材育成と企業支援
 - ⑨環境と共生し、将来につながる産業の創出・推進
- (4) 世界に誇る強みと魅力にあふれる持続可能なまち（都市）
 - ⑩世界に誇れる都市の価値と魅力の創出
 - ⑪創造性あふれ持続可能なまちづくりの推進
 - ⑫つながりと共創を育む移住・関係人口の創出

3. 体系図

※ イメージ図

目指すまちの姿(2)

「(ふれあいに包まれ、
安心して暮らし、子育てができ、
若者が住み続けたいくなるイメージ像)」

「(まちに活気や賑わいがあり、
ここで仕事をして暮らしていきたい
と思えるイメージ像)」

基本方針(4)・基本施策(12)

~ひと~

人にやさしく、住み続けたい・帰ってきたいと思えるまち

- ① 安心して子どもを育める環境づくり
- ② 未来を担うひとを育てる教育の充実
- ③ やさしさと幸せを実感できる郷土づくり

~くらし~

笑顔と活気にあふれ、機能的で暮らしやすいまち

- ④ 健康で安心して暮らせる市民生活の確保
- ⑤ 快適で環境にやさしい生活環境の形成
- ⑥ 安全で持続可能な都市基盤の整備

~しごと~

多様な仕事や働き方を選び、将来を描けるまち

- ⑦ 多様で柔軟な働き方を実現する雇用環境の充実
- ⑧ 地域経済を支える人材育成と企業支援
- ⑨ 環境と共生し、将来につながる産業の創出・推進

~都市~

世界に誇る強みと魅力にあふれる持続可能なまち

- ⑩ 世界に誇れる都市の価値と魅力の創出
- ⑪ 創造性あふれ持続可能なまちづくりの推進
- ⑫ つながりと共創を育む移住・関係人口の創出

函館市総合計画について

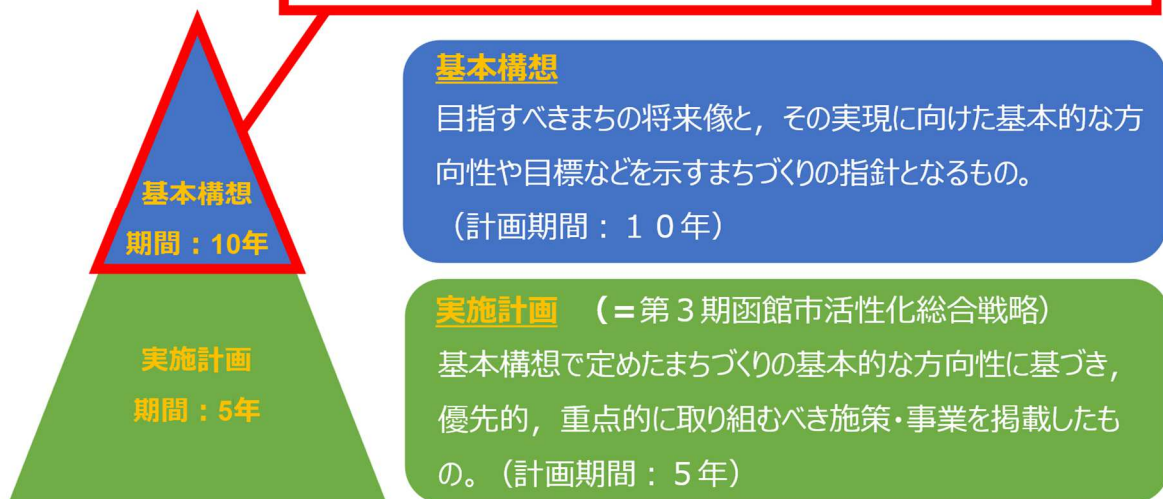
1 概要

地方自治法では、基本構想の法的な策定義務はなく、策定及び議会の議決を経るかどうかは市の自らの判断に委ねられることとなっており、函館市では、「函館市自治基本条例」により、「市長等は、将来を見据えた、総合的で計画的な行政運営を図るため、総合計画（議会の議決を経て定める基本構想ならびにその実現を図るための基本的な計画および実施に関する計画をいう。）を策定しなければならない。」と、基本構想の策定を義務付けしている。

函館市総合計画について

- ・まちづくりの基本的な理念や目標，方針等を定めたもの。
- ・自治体における全ての計画の最上位（基本）計画。
- ・自治体の全ての事業は総合計画に基づき行われている。

計画期間の満了に伴い、新たな基本構想（R9～）の策定が必要



	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)
(基本構想)	函館市総合計画 基本構想 (2017～2026)			函館市総合計画 基本構想 (2027～2036)			
				必要に応じて改定			
(実施計画)	第2期総合戦略		第3期函館市活性化総合戦略 (2025～2029)				

2 次期基本構想の策定までの流れ

- ・ワークショップ等による市民意見の把握（～令和7年度）
- ・基本構想審議会の実施（諮問・答申）
- ・パブリックコメント手続きの実施
- ・市議会での議決（議案：基本構想の改訂について）
- ・構想書公表

函館市基本構想審議会について

1 設置・所掌事務

【函館市基本構想審議会条例 第1条・第2条関係】

- (1) 市の総合計画における基本構想の策定に資するため、函館市基本構想審議会を置く。
- (2) 審議会は、市長の諮問に応じ、市の総合計画における基本構想について調査審議し、その結果を答申する。

2 組織等

【函館市基本構想審議会条例 第3条・第4条関係】

- (1) 審議会は、20人以内をもって組織し、委員は、学識経験を有する者、各種団体の推薦する者、公募による者、その他市長が必要と認める者のうちから市長が委嘱する。
- (2) 審議会に、会長および副会長各1人を置く。会長および副会長は、委員の互選により定める。

3 開催時期と内容（予定）

令和8年（2026年）5～9月頃までの間に4回程度開催。

第1回（5月13日）

- ・委員紹介，会長・副会長の選出
- ・諮問
- ・資料説明 など

第2回（6月下旬～7月上旬）

- ・次期基本構想に係る審議

第3回（7月中旬～8月上旬）

- ・次期基本構想に係る審議

第4回（7月下旬～8月下旬）

- ・次期基本構想に係る審議，答申案の協議・決定

答申（8月中旬～9月上旬）

- ・答申書手交

※各回の開催予定日については、前後する可能性あり。

○函館市基本構想審議会条例

平成18年3月24日

条例第5号

(設置)

第1条 市の総合計画における基本構想の策定に資するため、函館市基本構想審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ、市の総合計画における基本構想について調査審議し、その結果を答申するものとする。

(組織)

第3条 審議会は、委員20人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 各種団体の推薦する者
- (3) 公募による者
- (4) その他市長が必要と認める者

3 委員は、当該諮問に係る調査審議が終了したときは、解嘱されたものとする。

(会長および副会長)

第4条 審議会に、会長および副会長各1人を置く。

2 会長および副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、審議会の事務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、または会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 審議会の会議は、会長が招集する。

2 会長は、審議会の会議の議長となる。

3 審議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 会長は、必要があると認めるときは、審議会の会議に委員以外の者の出席を求め、その意見または説明を聴くことができる。

(部会)

第7条 審議会は、第2条の所掌事務を分掌させる必要があると認めるときは、部会を置くことができる。

(庶務)

第8条 審議会の庶務は、企画部において処理する。

(補則)

第9条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

- 1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 特別職の職員の給与等に関する条例（昭和40年函館市条例第22号）の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

附 則（平成28年3月15日条例第3号）

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。
(特別職の職員の給与等に関する条例の一部改正)
- 2 特別職の職員の給与等に関する条例（昭和40年函館市条例第22号）の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

現函館市総合計画における施策の主な取組状況 (平成29年度(2017年度)～令和6年度(2024年度))

※第1回函館市基本構想審議会 参考資料

目次

将来像の実現に向けた施策の主な取組状況	1
1 まちの賑わいを再生し未来へ引き継ぎます	2
① 観光・コンベンションの振興	
② 農林水産業の振興	
③ 商工業の振興	
④ 新産業の創出と企業立地の促進	
⑤ 学術研究機能の充実	
2 子ども・若者を育み希望を将来へつなぎます	7
⑥ 子ども・子育て支援の充実	
⑦ 学校教育・高等教育の充実	
⑧ 若者への支援の充実	
3 いつまでも生き生きと暮らせるまちをめざします	10
⑨ 暮らしを支える福祉の充実	
⑩ 生きがいづくり・健康づくりの推進	
⑪ 安全に暮らせる市民生活の確保	
⑫ 安定した雇用の維持・創出	
4 日本一魅力的なまち函館を次世代へ継承します	14
⑬ 魅力ある景観・町並み・市街地の形成	
⑭ 文化芸術の振興と歴史の継承	
⑮ 国際化と地域間交流の促進	
⑯ 陸・海・空の交通網の充実	
5 持続可能な都市の基盤を構築します	18
⑰ 社会基盤施設の機能維持	
⑱ 公共交通の再編	
⑲ 防災対策の充実	
⑳ 環境保全の推進	

将来像の実現に向けた施策の主な取組状況

- 1 まちの賑わいを再生し未来へ引き継ぎます
- 2 子ども・若者を育み希望を将来へつなぎます
- 3 いつまでも生き生きと暮らせるまちをめざします
- 4 日本一魅力的なまち函館を次世代へ継承します
- 5 持続可能な都市の基盤を構築します

1 まちの賑わいを再生し未来へ引き継ぎます

① 観光・コンベンションの振興

平成28年(2016年)3月の北海道新幹線開業を好機と捉えた首都圏等でのキャンペーンの展開や食に関連したイベントの開催やポータルサイトの開設のほか、新たな体験コンテンツの開発や周遊観光の促進および秋・冬季の誘客促進など、観光基本計画に基づき各種施策を推進してきました。

主な実施事業

- ・国内観光プロモーション事業
(冬季観光誘客、「北海道・北東北の縄文遺跡群」活用推進経費 等)
- ・海外観光プロモーション事業 (中国向け観光PR動画配信,
「イーストジャパン・キャンペーン推進協議会負担金 等)
- ・はこだて夜祭りinグリーンプラザ開催
- ・湯の川冬のイベント開催負担金
- ・はこだてひかりのガーデン開催
- ・ナイトタイムエコノミー促進経費
- ・湯の川地区活性化推進費
- ・非接触型函館観光プロモーション
- ・はこだてグリーンプラザイルミネーション関係経費
- ・観光地域づくり法人関係経費
- ・南茅部世界遺産活用支援事業
- ・函館山夜景魅力度向上事業

令和元年度
令和元年度から
令和元年度から
令和2年度
令和2年度から
令和3～5年度
令和3～6年度
令和5～6年度
令和5年度から
令和6年度から

ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等
観光入込客数 (来函観光入込客数推計)	<p>(万人)</p> <p>800 600 400 200 0</p> <p>495 (基準値) 524 526 536 600(目標値) 310 346 455 529 602 550 (目標値)</p> <p>2015 (H27) 2017 (H29) 2018 (H30) 2019 (R元) 2020 (R2) 2021 (R3) 2022 (R4) 2023 (R5) 2024 (R6) (年度)</p>
平均宿泊数 (来函観光入込客数推計)	<p>(泊)</p> <p>1.4 1.3 1.2 1.1 1</p> <p>1.22 1.27 1.23 (基準値) 1.13 1.24 1.31 1.26 1.29 1.28 (目標値)</p> <p>2017 (H29) 2018 (H30) 2019 (R元) 2020 (R2) 2021 (R3) 2022 (R4) 2023 (R5) 2024 (R6) (年度)</p>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を受けながらも、訪日外国人旅行者の増加や人気アニメの舞台となったことによる観光客の増加などが追い風となり、観光入込客数は令和6年度に過去最高の602万人を達成し、平均宿泊数についても目標値を上回る1.29泊を達成しました。

1 まちの賑わいを再生し未来へ引き継ぎます

② 農林水産業の振興

本市では、就業者の高齢化などによる担い手不足が課題であることから、資格取得への支援や設備投資への支援など、新規就業者への支援の拡充を図るとともに地場産品の高付加価値化や販路開拓等の推進、スマート農業の推進や養殖事業の充実など、経営安定化を図るための取組を進めました。

主な実施事業

- ・環境保全型農業直接支払推進事業費補助金
- ・農業・漁業所得向上調査費
- ・ワイン用ぶどう栽培支援事業費補助金
- ・小型イカ釣り漁業出漁支援補助金
- ・森林所有者意向等調査事業
- ・馬鈴薯連作障害解消対策事業費補助金
- ・スマート農業技術活用支援事業費補助金
- ・人・農地問題解決加速化支援事業
- ・地域材利用促進事業
- ・造林事業促進補助金（R3:定額補助から定率補助へ）
- ・漁業就業実態調査費
- ・卸売市場活性化対策費
- ・農業法人参入支援事業
- ・グリーンツーリズム推進事業

平成29年度から
平成30年度
令和元年度から
令和元年度から
令和元～2年度
令和2年度
令和2年度
令和2年度
令和2年度から

令和4年度
令和4年度から
令和5年度から
令和4年度から

ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等
農用地集積率 (農林水産部調べ)	<p>(%)</p> <p>90.0 80.0 70.0 60.0</p> <p>61.2 (基準値) 60.8 62.0 64.2 82.6 (増加) (目標値) 76.4 77.0 83.1 83.8</p> <p>2015 (H27) 2017 (H29) 2018 (H30) 2019 (R元) 2020 (R2) 2021 (R3) 2022 (R4) 2023 (R5) 2024 (R6) (年度)</p>
函館真昆布の認知度 (農林水産部調べ)	<p>(%)</p> <p>80.0 60.0 40.0 20.0 0.0</p> <p>1.28 (基準値) 8.8 11.2 25.0 66.0 (10.0% (R2目標値)) 65.0 72.0 61.0</p> <p>2016 (H28) 2017 (H29) 2018 (H30) 2019 (R元) 2021 (R3) 2022 (R4) 2023 (R5) 2024 (R6) (年度)</p>

着実に増加の傾向をみせており、一定の効果があったものと捉えています。

平成30年度時点で目標を達成しましたが、その後も全国の商業施設等におけるフェアにブースを出展するなど、認知度の向上に努めています。

1 まちの賑わいを再生し未来へ引き継ぎます

③ 商工業の振興

人口減少や少子高齢化の進行、新型コロナウイルス感染症の影響による消費行動の変化や海洋環境の急激な変化に伴う資源の減少など、社会経済情勢が大きく変化する中、新たな技術の活用への支援や小規模事業者に対する経営指導等の取組への支援など、中小企業や商店街の維持・持続的発展のための取組を進めました。

主な実施事業

- ・ふるさと納税関係経費(R5～各種プロモーションを強化)
- ・台湾物産展参加経費
- ・元気いっぱい商店街等支援交付金
- ・函館真昆布等PR対策補助金
- ・特産品開発支援事業補助金
- ・インバウンド向け販路開拓支援事業
- ・商店街等イベント開催補助金
- ・商店街等持続化支援事業補助金
- ・IT・ロボット等の活用による生産性向上支援事業
- ・販売力・発信力向上促進事業
- ・DX推進支援事業
- ・EC活用支援事業補助金

平成29年度から
平成29～30年度、
令和6年度
令和元年度まで
平成30年度
令和6年度から
令和元年度
令和2年度から
令和2年度から
令和2～6年度
令和4年度から
令和4～6年度
令和5年度から

ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等
海外の販路拡大事業における商談会の参加企業数(累計) (経済部調べ)	<p>令和2年度時点において目標値には達しなかったものの、参加企業数の累計は着実に増加しており、一定の成果があったものと捉えている。</p>
IT・ロボット等導入支援事業採択数(累計) (経済部調べ)	<p>各種セミナーの開催や製造事業者の組合に対する周知の実施など幅広い情報発信を行い、活用する事業者数の増加に努めました。</p>

1 まちの賑わいを再生し未来へ引き継ぎます

④ 新産業の創出と企業立地の促進

様々な分野の高等教育機関や研究機関が集積する本市の強みを生かし、新規創業を支援する取組などを進めるとともに、拠点開設のための準備に対する支援や初期投資への助成制度の拡充などのほか、本市の地域資源をPRするシティセールスの積極的な実施などに取り組んできました。

主な実施事業

- ・ 食の産業化振興費
- ・ 「食の担い手」育成推進費
- ・ 食の魅力発信事業費
- ・ 輸出ビジネス支援事業
- ・ 事業承継促進費
- ・ 企業立地動向調査事業
- ・ サテライトオフィス整備事業費補助金
- ・ 立地環境調査補助金
- ・ 地方拠点開設支援事業補助金

平成29年度から
平成30年度から
平成30年度から
令和2～3年度
令和3年度から
令和3年度
令和3年度
令和5年度から
令和5年度から

ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等
企業立地件数 (累計) (経済部調べ)	<p> (件) 60 50 40 30 20 10 0 </p> <p> 1 (基準値) 10 13 15 18 23 29 42 56 16 (目標値) </p> <p> 2014 (H26) 2017 (H29) 2018 (H30) 2019 (R元) 2020 (R2) 2021 (R3) 2022 (R4) 2023 (R5) 2024 (R6) (年度) </p>
創業支援者 件数 (累計) (経済部調べ)	<p> (件) 2,000 1,500 1,000 500 0 </p> <p> 381 (基準値) 154 458 792 1,180 1,557 1,800 (目標値) </p> <p> 2018 (H30) 2020 (R2) 2021 (R3) 2022 (R4) 2023 (R5) 2024 (R6) (年度) </p>

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、急速にテレワークが普及し、地方へのオフィス開設が進んだことなどにより、目標値を大きく超える結果となりました。

一定の件数で推移しており、需要は高いと考えられるため、今後も創業支援に係る取組を継続し、制度周知に取り組むことで利用者の増加を目指します。

1 まちの賑わいを再生し未来へ引き継ぎます

5 学術研究機能の充実

平成26年(2014年)に開所した国際水産・海洋総合研究センターを拠点として、「函館国際水産・海洋都市構想」のもと、北海道大学等と連携しながら水産・海洋分野の研究開発などの取組を進め、地域が抱える諸課題の解決を図るため、その研究開発の成果の地域への還元に努めてきました。

主な実施事業

- ・水産海洋研究連携推進事業 (H29:ホッケの資源回復に向けた研究, R2:天然コンブ繁茂状況の改善に向けた研究 等) 平成29～令和3年度
- ・魚類等養殖推進事業 (R3:キングサーモン完全養殖技術研究 等) 令和元年度から
- ・コンブ漁業作業省力化研究事業 令和元～3年度
- ・水産・海洋に関するローカルイノベーション創出支援事業 令和2～3年度
- ・天然コンブ資源回復緊急対策事業 令和5年度から
- ・ウニ蓄養試験調査事業 令和5年度

ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等
水産・海洋関連の学会、シンポジウムなどの誘致(累計) (企画部調べ)	<p>令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響で学会等の開催がオンライン等に置き換わったことにより、累計件数が横ばいとなっているが、引き続き誘致を行い実施の増加に努めます。</p>

2 子ども・若者を育み希望を将来へつなぎます

⑥ 子ども・子育て支援の充実

子ども家庭相談センターの設置等，相談窓口の充実や，医療助成をはじめとした各種助成制度の拡充，第2子以降の保育料無償化，小学校入学祝金給付等の経済的支援の取組を進めたほか，小規模多機能・放課後児童支援事業の実施や地域放課後児童クラブの整備など，子育て世帯が安心して子どもを育てることができる環境づくりに努めました。

主な実施事業

・子ども会議関係経費	平成29年度から
・特定不妊治療助成事業（H29:不育症治療の助成追加）	
・地域放課後児童健全育成事業(クラブ数の増,保育料の軽減拡充等)	
・小規模多機能・放課後児童支援事業	令和6年度から
・統合児童館建設事業（大森浜児童館）	平成30～令和2年度
・子ども・ひとり親家庭等医療助成費の拡充（R5.4～所得による受給資格の制限を撤廃，対象を高校3年生までに拡大）	
・ひとり親家庭の就労に関する支援（技能習得支援給付金の給付等）	令和元年度から
・妊産婦検診交通費等助成事業（R5:多胎妊娠の妊産婦検診費を追加）	
・出生祝記念品事業	令和4年度から
・中学校卒業生入学準備等給付金	令和4～6年度
・小学校入学祝金給付（R6～実施）	令和5年度から
・第2子以降の保育料無償化（R6～実施）	令和5年度から
・ヤングケアラー実態調査費	令和5年度
	ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等																																								
乳幼児健康診査受診率 (子ども・子育て支援事業計画)	<p>※目標値：98.0%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>4か月児 (%)</th> <th>1歳6か月児 (%)</th> <th>3歳児 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2015 (H27)</td> <td>97.6</td> <td>95.3</td> <td>95.1</td> </tr> <tr> <td>2017 (H29)</td> <td>97.8</td> <td>95.0</td> <td>96.5</td> </tr> <tr> <td>2018 (H30)</td> <td>97.5</td> <td>96.5</td> <td>97.5</td> </tr> <tr> <td>2019 (R元)</td> <td>96.5</td> <td>95.0</td> <td>96.0</td> </tr> <tr> <td>2020 (R2)</td> <td>97.0</td> <td>99.0</td> <td>95.5</td> </tr> <tr> <td>2021 (R3)</td> <td>98.0</td> <td>99.5</td> <td>98.0</td> </tr> <tr> <td>2022 (R4)</td> <td>98.0</td> <td>98.5</td> <td>100.5</td> </tr> <tr> <td>2023 (R5)</td> <td>98.0</td> <td>98.0</td> <td>99.5</td> </tr> <tr> <td>2024 (R6)</td> <td>97.4</td> <td>98.3</td> <td>97.3</td> </tr> </tbody> </table>	年度	4か月児 (%)	1歳6か月児 (%)	3歳児 (%)	2015 (H27)	97.6	95.3	95.1	2017 (H29)	97.8	95.0	96.5	2018 (H30)	97.5	96.5	97.5	2019 (R元)	96.5	95.0	96.0	2020 (R2)	97.0	99.0	95.5	2021 (R3)	98.0	99.5	98.0	2022 (R4)	98.0	98.5	100.5	2023 (R5)	98.0	98.0	99.5	2024 (R6)	97.4	98.3	97.3
年度	4か月児 (%)	1歳6か月児 (%)	3歳児 (%)																																						
2015 (H27)	97.6	95.3	95.1																																						
2017 (H29)	97.8	95.0	96.5																																						
2018 (H30)	97.5	96.5	97.5																																						
2019 (R元)	96.5	95.0	96.0																																						
2020 (R2)	97.0	99.0	95.5																																						
2021 (R3)	98.0	99.5	98.0																																						
2022 (R4)	98.0	98.5	100.5																																						
2023 (R5)	98.0	98.0	99.5																																						
2024 (R6)	97.4	98.3	97.3																																						
子育て環境や子育て支援についての満足度 (子ども・子育て支援事業計画)	<p>22.7 (基準値)</p> <p>17.4 (目標値)</p> <p>増加 (目標値)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>満足度 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018 (H30)</td> <td>22.7</td> </tr> <tr> <td>2023 (R5)</td> <td>17.4</td> </tr> <tr> <td>2024 (R6)</td> <td>22.7</td> </tr> </tbody> </table>	年度	満足度 (%)	2018 (H30)	22.7	2023 (R5)	17.4	2024 (R6)	22.7																																
年度	満足度 (%)																																								
2018 (H30)	22.7																																								
2023 (R5)	17.4																																								
2024 (R6)	22.7																																								

目標値を下回る年度もありましたが，今後も未受診者の保護者への受診勧奨を継続実施するほか，令和7年度からは市公式LINEによる手続きが可能とするなど受診率の向上に努めています。

新型コロナウイルス感染症の流行など社会情勢の変化により，目標値を下回る結果となりましたが，引き続き，子育て支援に係る各種施策に取り組みます。

2 子ども・若者を育み希望を将来へつなぎます

⑦ 学校教育・高等教育の充実

本市の児童生徒数が、平成27年(2015年)の約1万8千人から令和6年(2024年)の約1万5千人と、約17%減少する中、望ましい学級規模を維持するため、学校統廃合を進めるとともに、子どもたちの成長を地域で支えるコミュニティ・スクールの全市立学校・園への導入を実施したほか、独自に非常勤講師等の人材の配置を行うなど、教育環境の充実を図ってきました。

主な実施事業

- いじめ・不登校等対策推進費
(H29:相談員1名→2名へ増員, H30:いじめ防止対策審議会の設置)
 - 未来のIT人材育成推進費 (H29~:指導者の人材育成)
 - 就学扶助費 (H30-R5:基準の段階的引き上げ, R5:支給項目追加)
 - 学校司書関係経費 (H30:4名→R1:8名→R2:12名→R3:15名) 平成30年度から
 - 外国人英語指導助手の増員 (H30:6名→8名)
 - コミュニティスクール推進事業 (H28:1校→H30:50校→R1全校設置)
 - 部活動地域支援者活用事業 (H30:10校→R6:13校)
 - スクールソーシャルワーカー関係経費 令和元年度から
 - 特別支援教育支援員関係経費 (人員の増)
 - SNS教育相談事業 令和元~2年度
 - 私立学校・私立専修学校運営助成費(R1-5:単価の段階的引き上げ)
 - 学力向上非常勤講師配置事業 (R3:小学校に理科専科講師を配置)
 - 不登校生徒支援非常勤講師配置事業 令和5年度から
 - 小学校スクールカウンセラー関係経費 令和5年度から
- ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等																														
コミュニティ・スクールの指定校 (教育委員会調べ)	<p>指定校数(校) 指定率(%)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>2016</td><td>2017</td><td>2018</td><td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td><td>2023</td><td>2024</td></tr> <tr><th>指定校数</th><td>1</td><td>1</td><td>50</td><td>66</td><td>66</td><td>63</td><td>60</td><td>59</td><td>59</td></tr> <tr><th>指定率</th><td>0.0</td><td>0.0</td><td>66.7</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr> </table>	年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	指定校数	1	1	50	66	66	63	60	59	59	指定率	0.0	0.0	66.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024																						
指定校数	1	1	50	66	66	63	60	59	59																						
指定率	0.0	0.0	66.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0																						
いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う児童生徒の割合 (文部科学「全国学力・学習状況調査」)	<p>(%) 小学6年生 中学3年生 (目標値)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>2018</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td><td>2023</td><td>2024</td></tr> <tr><th>小学6年生</th><td>83.6</td><td>87.8</td><td>88.9</td><td>88.2</td><td>86.9</td><td>87.9</td></tr> <tr><th>中学3年生</th><td>83.6</td><td>84.3</td><td>88.1</td><td>87.8</td><td>84.3</td><td>83.8</td></tr> </table>	年度	2018	2020	2021	2022	2023	2024	小学6年生	83.6	87.8	88.9	88.2	86.9	87.9	中学3年生	83.6	84.3	88.1	87.8	84.3	83.8									
年度	2018	2020	2021	2022	2023	2024																									
小学6年生	83.6	87.8	88.9	88.2	86.9	87.9																									
中学3年生	83.6	84.3	88.1	87.8	84.3	83.8																									

令和元年度に全市立幼・小・中・高等学校に導入し、保護者や地域と連携しながら、各学校において創意ある取組を推進しました。

小学6年生では目標達成には至らなかったため、配置の拡充等を進めてきたところの相談員やスクールソーシャルワーカーなどの相談体制を確保するほか、各校の取組状況の共有などに努めます。

2 子ども・若者を育み希望を将来へつなぎます

⑧ 若者への支援の充実

本市では、市外への転出超過が進んでおり、特に20代から30代の若者の流出が喫緊の課題となっています。若者の地元就職を後押しするため、地元企業のマッチング機会への支援や採用情報の発信強化などを進めるとともに、市内中小企業等に就職した場合に、企業等と連携して奨学金の返還を支援する制度の創設などに取り組みました。

主な実施事業

- ・ 給付型奨学金（H30～実施）
- ・ 若者の創業支援事業
- ・ ひとり親家庭等子どものための学習支援
- ・ 社会人基礎力レベルアップ研修開催経費
- ・ 若者の出会いの場創出事業
- ・ 若者向け創業バックアップ助成金
- ・ しごとフェスタ開催経費
- ・ 若者の地元定着支援事業
- ・ 就職促進マッチング支援事業
- ・ はこだてエリア企業採用情報発信支援事業
- ・ 若者の地元就職促進事業調査費
- ・ 奨学金返還支援事業（R6～実施）
- ・ 公立はこだて未来大学の授業料および入学料無償化

平成29年度から
平成29年度から
平成30年度から
平成30～令和2年度
平成30年度
令和元年度から
令和元年度から
令和元年度から
令和3年度から
令和3年度から
令和4年度
令和5年度から
令和6年度から

ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等
函館コミュニティプラザ利用者数 (経済部調べ)	<p>毎年度、目標を上回る利用があり、市民や若者が気軽に立ち寄り、自由にくつろげる場として、また、子どもや若者の交流・まなびの場として施設の設置目的に大きく寄与しています。</p>

3 いつまでも生き生きと暮らせるまちをめざします

⑨暮らしを支える福祉の充実

令和2年(2020年)に実施した国勢調査の結果、本市では65歳以上の高齢者の占める割合が35%と、少子高齢化が進行しています。市民の誰もがこのまちで安心して暮らすことができるよう、あらゆる困りごとに対応する福祉拠点の整備を進めるとともに、介護人材の確保などに取り組んできました。

主な実施事業

- ・高齢者交通料金助成 (H29:ICカードシステムの導入)
- ・介護予防・日常生活支援総合事業
- ・認知症初期集中支援チーム配置事業 (H30～実施)
- ・介護職員等資格取得支援事業費 (R2:法人の他個人も補助対象化, R5:介護福祉士実務者研修を補助対象化)
- ・障害者等外出支援事業 (H29:ICカードシステムの導入)
- ・生活困窮世帯学習支援事業 (H30:2か所→3か所, R1:40名→50名, R6:50名→100名)
- ・認知症地域支援推進員の配置拡充
- ・介護助手活用促進事業費 (R5:申請期間延長)
- ・成年後見センター運営事業 (H30～後見人養成研修の実施)
- ・地域で見守り支える福祉拠点推進経費
- ・介護人材確保・育成促進事業(R5:研修委託化)
- ・「介護のしごと魅力発信事業」開催経費
- ・介護人材等地域定着奨励金 (R6～実施)
- ・介護人材養成活動支援事業
- ・南茅部病院移転新築事業

平成29年度から
平成29年度から
平成29年度から

平成30年度から
平成30年度から

令和元年度から
令和5年度から
令和4年度から
令和5年度から
令和5年度から
令和5年度から

ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等
介護支援ボランティア登録者数 (保健福祉部調べ)	<p>登録者数は増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により減少後、横ばいが続いていることから、登録者数の増加に向けて引き続き制度の周知等に努めます。</p>
地域包括支援センターの相談件数 (保健福祉部調べ)	<p>令和4年に市内10箇所福祉拠点として開設して以降、毎年度相談件数は増えており、高齢者に限らず多様な困りごとに対応できる体制が評価されています。</p>

3 いつまでも生き生きと暮らせるまちをめざします

⑩ 生きがづくり・健康づくりの推進

市民の誰もが生涯にわたって健康で生きがいを持って暮らすことができるよう、アプリ等を活用した市民の健康増進に向けた取組やがん健診の受診勧奨の拡大などを進めたほか、亀田交流プラザや各種スポーツ施設の整備など、市民の活動の場の整備を進めました。

主な実施事業

<ul style="list-style-type: none"> ・ 亀田交流プラザ整備事業 ・ 「はこだて市民健幸大学」実行委員会負担金（健康イベントの開催，健幸アプリの提供） ・ 2020東京オリンピック・パラリンピック合宿支援等 函館市実行委員会負担金 ・ がん検診受診促進・普及啓発等関係経費（無料クーポン券の配付 等） ・ 健康経営推進事業（R4:健康経営ハンドブックの作成・配付） ・ 千代台公園庭球場整備事業 ・ 市民スケート場整備事業 ・ はこだて健幸応援店”スマートバランスレストラン”事業 ・ 口腔保健推進事業 ・ 自殺対策推進費（R3:電話相談事業 週2回→週3回） ・ 根崎公園ラグビー場改修事業 ・ 医療用ウィッグ購入助成事業 ・ アーバンスポーツ等普及振興事業 	<p>平成28～R元年度 令和元年度から</p> <p>令和元年度</p> <p>令和2年度から 令和2～3年度 令和2年度</p> <p>令和3年度から 令和3年度から</p> <p>令和4年度 令和5年度から 令和5年度から</p> <p>ほか</p>
---	--

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等
<p>がん検診受診率 (北海道「市町村別がん検診受診率」)</p>	<p> ● 胃 ● 肺 ● 大腸 ● 乳 ● 子宮 R元(基準値) 胃:2.9% 肺:3.6% 大腸:3.6% 乳:10.4% 子宮:10.9% R6(実績) 胃:2.8% 肺:4.6% 大腸:4.6% 乳:12.0% 子宮:14.7% </p>
<p>健康寿命 (北海道健康増進計画)</p>	<p> (歳) 女性 82.6 (2016 H28) 82.6 (2022 R4) 82.6 (2024 R6) ● 延伸 (目標値) 男性 77.3 (2016 H28) 77.7 (2022 R4) </p>

3 いつまでも生き生きと暮らせるまちをめざします

① 安全に暮らせる市民生活の確保

誰もがいつまでも住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らすことができるよう、地域コミュニティの核となる町会への支援の拡充や男女共同参画に関する取組を推進したほか、公衆浴場の経営に対する支援の拡充などに取り組みました。

主な実施事業

- ・性暴力被害者支援関係経費（H30:相談体制の拡充）
- ・ワーク・ライフ・バランスアドバイザー派遣事業
- ・町会長等研修事業費負担金
- ・119番通報多言語通訳サービス委託経費
- ・町会活性化推進事業（R3:活性化モデル事業の実施, R5:デジタル化促進講座の実施）
- ・函館市パートナーシップ宣誓制度の導入（R4.4.1制度開始）
- ・町会交付金（R4:組織割や世帯割の引き上げ）
- ・民生委員活動費（R4:活動費単価75,204円→85,200円）
- ・地域安心安全促進交付金（R5:1台あたり5千円→2万円）
- ・公衆浴場経営安定化事業補助金（R5:上限額の引き上げ 等）
- ・公衆浴場設備整備事業補助金（R5:上限額の引き上げ 等）
- ・湯川団地共同浴場関係経費
- ・特殊詐欺防止対策機器購入費補助金

平成29年度から
平成30年度から
平成30年度から
平成30年度から
令和元年度から

令和3年度から

令和5年度から
令和5年度から

ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等
交通事故による傷者数 (函館市「数字で見る交通安全」)	<p>市内における交通事故発生件数および傷者数は減少傾向にありましたが、近年では横ばいの状況が続いていることから、今後も交通安全教室の開催などを通じて交通事故防止の啓発に努めます。</p>
国民健康保険特定健診受診率 (市民部調べ)	<p>目標の達成には至りませんでしたでしたが、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後は、年々受診率が向上していることから、引き続き受診勧奨の取組などを進めます。</p>

3 いつまでも生き生きと暮らせるまちをめざします

12 安定した雇用の維持・創出

令和元年度(2019年度)以降、函館公共職業安定所管内における有効求人倍率が1を割り込む状況が続く一方で、人材が不足している職種もある中、女性や高齢者などの潜在人材の活用を促進するため、時短勤務などの多様な働き方の導入に対する支援や、外国人材の活用を検討する事業者への相談支援などに取り組みました。また、企業立地促進条例補助金の拡充など企業誘致の推進に努めました。

主な実施事業

- ・企業立地促進条例補助金 (H30:市外企業の優遇制度強化)
- ・女性の再就業支援事業
- ・女性の就労可能性調査モデル事業
- ・女性・高齢者の就労体験事業
- ・外国人労働者採用セミナー開催
- ・北海道UIJターン新規就業支援事業
(R4:移住支援金の拡充(子ども1人につき30万円加算))
(R5:移住支援金の拡充(R5以降の転入者において、子ども1人につき100万円加算))
- ・女性・高齢者の多様な働き方導入モデル事業
- ・女性・高齢者等の潜在人材活躍推進事業
- ・外国人材採用相談事業

平成29年度～令和3年度
平成30年度
令和元年度
令和元年度
令和元年度から

令和3年度
令和4年度から
令和4年度から

ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等
課税対象所得 (納税義務者一人あたり) (総務省「市町村税課税状況等の調」)	<p>1人あたり所得額は増加しているものの、全国的に同様の傾向にあり、全国・全道の平均を下回って推移している状況のため、引き続き雇用創出への支援などに努めます。</p>
新規雇用者数 (累計) (経済部調べ)	<p>企業立地件数が目標を大きく上回ったこと等により、新規雇用者数も目標を大きく上回る結果となりましたが、今後も若者の地元定着につながるような雇用の創出への支援に努めます。</p>

4 日本一魅力的なまち函館を次世代へ継承します

13 魅力ある景観・町並み・市街地の形成

函館山に代表される自然景観や歴史的建造物が建ち並ぶ西部地区の町並みなどの魅力ある景観をさらに磨き上げ、活用を促進するための支援を拡充したほか、都市機能等の誘導区域を定める立地適正化計画の策定や中心市街地再開発事業など、まちの賑わいの創出と交流人口の拡大のための取組を進めました。

主な実施事業

- ・ 函館山遊歩道整備
- ・ 西部地区再整備事業（R3:西部地区再整備会社出資）
- ・ 視点場整備事業
（H30, R1:元町配水場・旧函館検疫所台町措置場, R4～R6:船見公園）
- ・ 若松町駐車場整備
- ・ 函館駅前自転車駐車場整備
- ・ 伝統的技術者継承人材育成事業補助金
- ・ 五稜郭賑わいプロジェクト開催経費
- ・ 空家等除却支援補助金（R3:対象地区の拡大）
- ・ 空家等改修支援補助金
- ・ 立地適正化計画推進費
- ・ 函館駅前東地区市街地再開発事業公共施設整備
- ・ 空家等実態調査費
- ・ 歴史的町並み形成推進費

平成29年度から
平成30年度から
平成30～令和6年度

令和元年度
令和元年度
令和元年度
令和2年度から

令和3年度から
令和4年度から
令和4年度から
令和5年度
令和6年度

ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等
伝統的建造物 および景観形成 指定建築物等の 件数 (都市建設部調べ)	<p>所有者の意向もあり、当初目標設定年度においては目標の達成に至らなかったが、保全・活用の取組を継続した結果、令和4年度に目標を達成しました。</p>
西部地区居住 者の減少率 (都市建設部調べ)	<p>目標の達成には至らなかったが、市全体の人口減少率と比較して西部地区の人口減少率は抑制されていることから、引き続き低未利用不動産の活用促進に取り組みます。</p>

4 日本一魅力的なまち函館を次世代へ継承します

14 文化芸術の振興と歴史の継承

市文化賞の対象分野の拡大や文化・芸術活動団体の活動に対する支援制度の創設、小・中学校への地域の芸術家等の派遣など、文化芸術の振興に努めました。

また、史跡大船遺跡や史跡垣ノ島遺跡の整備を進め、世界文化遺産登録に向けた取り組みを推進したことに加え、市内の小学生が縄文文化について学ぶ郷土学習を実施するなど、歴史を継承する取り組みを進めました。

主な実施事業

- ・ 函館TOM向上推進費
- ・ 市文化賞表彰経費（H30:対象分野の拡大）
- ・ 重要文化財遺愛学院本館保存修理事業
- ・ 重要文化財大谷派本願寺函館別院保存修理事業
- ・ 郷土学習推進費
- ・ 縄文遺跡群世界遺産登録推進関係経費（R3:受入体制の充実など）
- ・ (仮称)総合ミュージアム整備推進費
- ・ 文化芸術活動促進補助金
- ・ 市民会館Wi-Fi設備導入経費

平成29～令和2年度

平成30年度から
令和元年度から
令和2年度から
令和3年度から
令和5年度から
令和5年度から
令和6年度

ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等
指定文化財・登録文化財の件数 (教育委員会調べ)	<p>平成29年度に目標を達成しましたが、その後も新規の指定・登録物件が増加となるなど、文化財保護の推進が図られています。</p>
縄文文化交流センター入館者数(累計) (教育委員会調べ)	<p>目標の達成には至りませんでしたでしたが、今後も周年記念イベントなどの各種事業を実施するほか、来場者の受入体制の充実を図るなど、入館者増に向けた取り組みを進めます。</p>

4 日本一魅力的なまち函館を次世代へ継承します

15 国際化と地域間交流の促進

本市に居住する外国人人口は、この10年間で2倍以上増加しています。市民との相互理解の促進や本市の国際化の推進のため、交流イベントの実施や生活相談窓口の設置等に取り組みました。

また、南北海道定住自立圏の中心市として、渡島・檜山管内の17市町と連携して医療や交通等の諸課題に対応してきたほか、広域観光連携の推進や移住者・定住者誘致の促進など、圏域全体で人を呼び込む取り組みを進めました。

主な実施事業

- ・ 広域観光連携推進経費
- ・ ユジノサハリンスク市障がい者団体受入
- ・ 2020東京オリパラ合宿支援函館市実行委員会負担金
- ・ ツインシティ提携35周年記念事業
- ・ 戊辰戦争終結150周年記念事業負担金
- ・ 地域国際化推進費
- ・ ワークেশョン促進事業
- ・ ひろはこ連携推進実行委員会負担金
- ・ テレワーク活用事業検討調査費

平成29～令和6年度
平成30年度
令和3年度
令和6年度
令和元年度
平成29～令和6年度
令和2年度から
令和4～6年度
令和4年度

ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等
南北海道定住自立圏共生ビジョン掲載事業数 (企画部調べ)	<p>平成29年度に目標を達成しましたが、その後も新規の掲載事業数が増加となるなど、関係市町の連携推進が図られています。</p>
函館市UIJターン相談コーナーを通じて移住した件数(累計) (企画部調べ)	<p>新型コロナウイルス感染症による人口移動の大きな変化がありながらも、毎年5～8名の就職が決定し、累計32名の移住に結びつき、目標達成率としては90%以上となっています。</p>

4 日本一魅力的なまち函館を次世代へ継承します

16 陸・海・空の交通網の充実

交通の要衝としての機能をさらに強化するため、高規格道路等の整備を進めたほか、若松ふ頭に旅客ターミナルを整備し、クルーズ船の寄港増に向け積極的なポートセールスを実施しました。

また、国内・国際航空路線の拡大に向け、道内の他の自治体や空港会社と連携し、受入体制確保への支援等を実施したほか、北海道新幹線の札幌開業の早期実現に向けた取組の実施や、並行在来線のあり方について協議を進めるとともに、新幹線の函館駅乗り入れ検討調査を実施しました。

主な実施事業

- ・若松地区旅客船ふ頭整備事業
- ・函館空港国内線活性化協議会負担金
- ・臨港道路整備事業（末広地区）
- ・函館空港国際航空便就航促進事業補助金（H30:補助期間1年→3年に拡充）
- ・函館空港国際航空便再開補助金
- ・函館空港国際空港便就航補助金
- ・函館空港国際航空便運航補助金
- ・国直轄港湾整備事業（本港地区）
- ・若松ふ頭ターミナル整備事業
- ・港町ふ頭コンテナ蔵置場整備事業
- ・若松地区バス乗降場整備事業
- ・北海道新幹線建設促進費（R2:北海道新幹線並行在来線対策協議会負担金など）
- ・新幹線函館駅乗り入れ検討調査

平成28～令和4年度
平成29～30年度
平成30～令和2年度
平成28～令和3年度
令和5年度
令和5年度
令和6年度
令和元～6年度
令和元～4年度
令和元年度
令和2年度
令和5年度から

ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等
クルーズ船寄港回数 (港湾空港部調べ)	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたことにより、目標達成には至りませんでした。5類感染症へ移行後は順調に回復傾向にあります。</p>
国内空港航空路線数 (港湾空港部調べ)	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、搭乗者数は大きく減少しましたが、路線数は影響を受けることなく推移しています。</p>

5 持続可能な都市の基盤を構築します

17 社会基盤施設の機能維持

道路や橋梁、上下水道などの社会基盤施設は、平成16年(2004年)の市町村合併以前からの施設も含め、昭和45年(1970年)以降に整備した施設が数多く、今後40年間で多くの施設が更新時期を迎えます。これらの施設の長寿命化に向けた取組や耐震化を進めました。

主な実施事業

- ・生活道路の歩行者安全対策事業
- ・赤川高区浄水場等更新整備事業
- ・国道279号照明灯美装化事業負担金
- ・トンネル長寿命化対策事業
- ・サクラ環境対策費
- ・梁川公園施設整備事業
- ・道路施設点検事業 (R6:路面性状調査を実施)
- ・除雪費 (R6:除雪管理システム試験運用)

平成30～令和4年度
令和元年度から
令和2年度から
令和4～6年度
令和3年度から
令和4～5年度

ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等																				
都市計画道路の整備率 (土木部調べ)	<p>(%)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>2016 (H28)</td><td>2017 (H29)</td><td>2018 (H30)</td><td>2019 (R元)</td><td>2020 (R2)</td><td>2021 (R3)</td><td>2022 (R4)</td><td>2023 (R5)</td><td>2024 (R6)</td></tr> <tr><th>整備率 (%)</th><td>78.6 (基準値)</td><td>73.5</td><td>76.5</td><td>77.0</td><td>80.3</td><td>80.5 (目標値)</td><td>80.3</td><td>80.4</td><td>80.5 (目標値)</td></tr> </table>	年度	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R元)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	整備率 (%)	78.6 (基準値)	73.5	76.5	77.0	80.3	80.5 (目標値)	80.3	80.4	80.5 (目標値)
年度	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R元)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)												
整備率 (%)	78.6 (基準値)	73.5	76.5	77.0	80.3	80.5 (目標値)	80.3	80.4	80.5 (目標値)												
橋梁の長寿命化修繕実施数 (累計) (土木部調べ)	<p>(橋)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>2016 (H28)</td><td>2017 (H29)</td><td>2018 (H30)</td><td>2019 (R元)</td><td>2020 (R2)</td><td>2021 (R3)</td><td>2022 (R4)</td><td>2023 (R5)</td><td>2024 (R6)</td></tr> <tr><th>実施数</th><td>5 (基準値)</td><td>1</td><td>7</td><td>12</td><td>19</td><td>21</td><td>26</td><td>31</td><td>36</td></tr> </table>	年度	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R元)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	実施数	5 (基準値)	1	7	12	19	21	26	31	36
年度	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R元)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)												
実施数	5 (基準値)	1	7	12	19	21	26	31	36												

用地交渉に時間を要したことなどにより、目標値を下回ったものの、毎年度整備率は上昇していることから、今後も予定通り整備を進められるよう努めます。

令和2年度時点の目標値は下回っていますが、毎年度一定程度の修繕を実施しているため、今後も着実な実施に努めます。

5 持続可能な都市の基盤を構築します

18 公共交通の再編

美原地区路線バス乗降場の整備による交通結節点の利便性の向上に努めるとともに、AIデマンド交通実証運行を実施し、地区特性に応じた運行形態について検討したほか、運転手不足対策として、二種免許の取得に対する補助制度を開始するなど、将来にわたって持続可能な公共交通のネットワークの構築へ向けて取組を進めました。

主な実施事業

- ・美原地区路線バス乗降場整備事業
- ・ユニバーサルデザインタクシー購入費補助金
- ・函館駅内方線付き天状ブロック整備費補助金
- ・グリーンスローモビリティ実証運行
- ・函館市地域公共交通計画策定経費
- ・公共交通運転手確保対策事業
- ・AIデマンド交通実証運行

平成30～令和2年度
平成30年度から
令和元年度
令和4年度
令和4～5年度
令和6年度から
令和6年度

ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等																								
路線バス利用者数の減少率 (企画部調べ)	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた年度を除き、人口減少率が年々増加していく一方でバス利用者の減少率は横ばいとなっています。</p> <table border="1"> <caption>路線バス利用者数の減少率と人口減少率の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>人口減少率 (%)</th> <th>バス利用者減少率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2017 (H29)</td> <td>6.8</td> <td>7.3</td> </tr> <tr> <td>2018 (H30)</td> <td>8.1</td> <td>3.3</td> </tr> <tr> <td>2019 (R元)</td> <td>9.3</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>2020 (R2)</td> <td>10.6</td> <td>17.3</td> </tr> <tr> <td>2021 (R3)</td> <td>11.9</td> <td>16.3</td> </tr> <tr> <td>2022 (R4)</td> <td>13.2</td> <td>6.9</td> </tr> <tr> <td>2023 (R5)</td> <td>14.7</td> <td>6.1</td> </tr> </tbody> </table>	年度	人口減少率 (%)	バス利用者減少率 (%)	2017 (H29)	6.8	7.3	2018 (H30)	8.1	3.3	2019 (R元)	9.3	4.0	2020 (R2)	10.6	17.3	2021 (R3)	11.9	16.3	2022 (R4)	13.2	6.9	2023 (R5)	14.7	6.1
年度	人口減少率 (%)	バス利用者減少率 (%)																							
2017 (H29)	6.8	7.3																							
2018 (H30)	8.1	3.3																							
2019 (R元)	9.3	4.0																							
2020 (R2)	10.6	17.3																							
2021 (R3)	11.9	16.3																							
2022 (R4)	13.2	6.9																							
2023 (R5)	14.7	6.1																							

5 持続可能な都市の基盤を構築します

19 防災対策の充実

学校施設をはじめとする公共施設の耐震化や防災行政無線の整備を着実に進めるとともに、津波ハザードマップの配布や防災フェスタの開催など、市民の防災意識向上のための取組を進めました。

また、より災害に強いまちづくりを推進するため、令和6年度(2024年度)には危機管理監を配置し、迅速な対応と関係機関等との連携強化を図りました。

主な実施事業

・ 亀田小学校校舎耐震改修事業	平成29～30年度
・ 防災意識普及啓発関係経費 (R1:避難場所標識の更新, R4:津波ハザードマップの更新・配布等)	平成29年度から
・ 避難所耐震改修工事(特定建築物耐震化支援事業)	平成29～令和2年度
・ 地域防災計画改定関係経費	平成30年度
・ 防災行政無線整備	平成30～令和6年度
・ 防災サポート無線整備費補助金	平成30年度
・ 庁舎設備改修費(支所,総合保健センター)	令和元～2年度
・ 大間原発訴訟市民説明会開催経費	令和元年度から
・ 災害時健康危機管理体制推進事業	令和2～3年度
・ Net119緊急通報システム運用経費	令和2年度から
・ 大規模盛土造成地滑動崩落予測調査費	令和3～6年度
・ 個別避難計画の作成(避難行動要支援者支援関係経費)	令和5年度から

ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等																				
公共施設の耐震化率 (都市建設部調べ)	<p>(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>2016 (H28)</th> <th>2017 (H29)</th> <th>2018 (H30)</th> <th>2019 (R元)</th> <th>2020 (R2)</th> <th>2021 (R3)</th> <th>2022 (R4)</th> <th>2023 (R5)</th> <th>2024 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>耐震化率 (%)</td> <td>90.0 (基準値)</td> <td>92.4</td> <td>92.9</td> <td>93.1</td> <td>94.6</td> <td>95.0 (目標値)</td> <td>96.2</td> <td>97.0</td> <td>97.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>対象となる公共施設の耐震化を着実に実施した結果、令和3年度には目標を達成しました。今後も市有建物の耐震化に引き続き取り組みます。</p>	年度	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R元)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	耐震化率 (%)	90.0 (基準値)	92.4	92.9	93.1	94.6	95.0 (目標値)	96.2	97.0	97.0
年度	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R元)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)												
耐震化率 (%)	90.0 (基準値)	92.4	92.9	93.1	94.6	95.0 (目標値)	96.2	97.0	97.0												

5 持続可能な都市の基盤を構築します

20 環境保全の推進

令和2年(2020年)3月に、第3次となる「函館市環境基本計画」を策定し、アプリなども活用しながらごみの減量化・資源化の取組など、近年の環境問題に関する動向や本市の環境状況への適切な対応に努めました。

主な実施事業

- ・焼却灰セメント資源化関係経費
- ・プラスチックごみ対策費
- ・ごみ分別促進アプリ関係経費
- ・日乃出清掃工場整備および管理運営事業
- ・合併処理浄化槽設置費補助金の拡充
(R2:単独浄化槽撤去, 宅内配管工事への補助)
- ・ごみ減量・美化推進費 (R3:雑がみ回収袋の配布など)
- ・動物愛護団体活動支援補助金
- ・新エネルギー普及啓発関係経費
- ・電気自動車導入関係経費
- ・地域猫不妊去勢手術費補助金
- ・地球温暖化対策費 (R5~R6:省エネ家電購入促進事業の実施)
- ・環境啓発費 (R6:啓発リーフレットの作成・配布)

平成30年度から
令和元年度から
令和2年度
令和2年度から

令和4年度から
令和5~6年度
令和5年度
令和5年度から

令和6年度から

ほか

主な指標と進捗状況

指標	進捗状況等
温室効果ガスの総排出量 (環境部調べ)	<p>毎年度総排出量が減少していることから、取組に一定の効果があつたものと捉えています。</p>
リサイクル率 (一般廃棄物処理基本計画)	<p>電子化等に伴う新聞・雑誌類の発行部数の減少や缶・びんのペットボトルの転換による重量の減少などにより、目標達成に至りませんでしたが、引き続き資源ごみの分別徹底等の周知啓発を図り、再資源化の促進に努めます。</p>

新たな総合計画基本構想策定に係る 意見集約結果について

令和8年（2026年）5月

目次

1. ワークショップ・ヒアリングについて	2 ページ
1 – 1. 開催の背景・目的	3 ページ
1 – 2. 開催状況一覧	4 ページ
1 – 3. 開催概要	5 ページ
2. 参加者意見	8 ページ
2 – 1. Well-Beingワークショップ	9 ページ
2 – 2. 未来デザインワークショップ	10 ページ
2 – 3. グループヒアリング（中学生対象）	21 ページ

1. ワークショップ・ヒアリングについて

1. ワークショップ・ヒアリングについて

1-1. 開催の背景・目的

- 函館市では、令和9年度（2027年度）を始期とする新たな「函館市基本構想」の策定に向けた取り組みを進めています。
- 構想の策定にあたっては、本市のまちづくりに市民の意見を取り入れること、また、構想の策定段階から市民が参画し、まちづくりについて主体的に検討いただくことが重要と考えています。
- 市民が抱く函館の強みや弱み、未来の函館に対する思いや願いなど、多様な意見を新たな構想の策定に活かすため、令和7年（2025年）7月～11月にかけて下記ワークショップおよびヒアリングを実施しました。

① Well-Beingワークショップ（令和7年7月）

市職員および地域関係者を対象に、Well-Being指標を活用したまちづくりについて共通理解を深めること、指標の具体的な活用に係る意識醸成を目的としたワークショップ（計2回）

② 未来デザインワークショップ（令和7年8～11月）

次期基本構想策定における市民参画の重要プロセスとして、Well-Being指標等を用いた自由な討議や発表を通じ、函館市への想いや将来のまちづくりに関する市民の多様な意見を広く集約し、構想の策定に活かすことを目的としたワークショップ（地域開催6回・次世代人材対象3回 計9回）

③ グループヒアリング（令和7年11月）

市内の中学校生徒（生徒会役員）を対象に、函館市の現状や将来像について、次世代を担う子どもたちの視点による率直な意見を聴取し、その柔軟な発想等を次期基本構想の策定に活かすことを目的としたグループヒアリング（計4校）

【用語解説】

・ ウェルビーイング（Well-Being）

身体的・精神的・社会的に良好な状態にあり、個人の権利や自己実現が保障されていること。（厚生労働省ホームページを参考）

・ Well-Being指標

市民の「暮らしやすさ」や「幸福感」をデータとして可視化し、客観的に把握するための指標。（デジタル庁ホームページを参考）

※本資料は、上記の実施結果を共有するとともに、構想策定に向けた基礎資料とすることを目的に作成したものです。

1. グループワーク・ヒアリングについて

1-2. 開催状況一覧

①Well-Beingワークショップ（計2回）

計51人参加

No.	開催日時	会場	対象者	参加者数
1	令和7年7月11日（金）10:00～17:00	函館市役所	市職員	30人
2	令和7年7月27日（日）10:00～16:30	北海道教育大学函館校	地域関係者	21人（うち市職員5人）

②未来デザインワークショップ（地域開催 6回・次世代人材対象 3回 計9回）

計123人参加

＜地域開催＞

No.	開催日時	地域	会場	対象者	参加者数
1	令和7年8月24日（日）13:30～16:30	東央部	市民会館	市民 ※高校生以上。 市内通勤・ 通学者を含む	24人（うち市職員3人）
2	令和7年9月21日（日）13:30～16:30	中央部	青年センター		23人（うち市職員3人）
3	令和7年10月8日（水）13:15～15:45	東部	南茅部総合センター		20人（うち市職員1人）
4	令和7年10月18日（土）13:30～16:30	東部	恵山コミュニティセンター		16人（うち市職員3人）
5	令和7年10月26日（日）13:30～16:30	北東部 （北部）	北海道ハウスタウンプラザ （亀田交流プラザ）		22人（うち市職員3人）
6	令和7年11月29日（土）13:30～16:30	西部	地域交流まちづくりセンター		18人（うち市職員3人）

＜次世代人材対象＞

計48人参加

No.	開催日時	会場	対象者	参加者数
1	令和7年8月6日（水）13:30～16:00	函館サーモン・まるなまホール （市民会館）	高校生	24人（うち市職員3人）
2	令和7年8月21日（木）13:30～16:00	函館市消防本部	市インターンシップ 実習生	11人（うち市職員4人）
3	令和7年11月9日（日）13:30～16:00	北海道ハウスタウンプラザ （亀田交流プラザ）	大学生 ※院生を含む	13人（うち市職員3人）

③グループヒアリング（中学校等 計4校）

計20人参加

No.	開催日時	対象校（会場）	対象者	参加者数
1	令和7年11月17日（月）15:30～16:00	函館市立巴中学校	生徒会 役員の 生徒	7人
2	令和7年11月18日（火）15:45～16:15	函館市立戸井学園		4人
3	令和7年11月20日（木）15:30～16:00	函館市立銭亀沢中学校		3人
4	令和7年11月27日（木）15:50～16:20	函館市立北中学校		6人

【参考】未来デザインワークショップ
＜地域開催＞
（市職員16人を除く）
市民参加者の年齢分布

	参加者数（割合）
10代	24人（22.4%）
20代	14人（13.1%）
30代	9人（8.4%）
40代	17人（15.9%）
50代	21人（19.6%）
60代	12人（11.2%）
70代	9人（8.4%）
80代	1人（0.9%）
計	107人

※割合は小数点第2位を四捨五入

延べ242人が参加

①51人+②171人+③20人

1. ワークショップ・ヒアリングについて

1-3. 開催概要①

■ ①Well-Beingワークショップ（計2回）

- ・ Well-Being指標を活用したまちづくりについて理解を深めるため、市職員・地域関係者を対象に、他都市とのデータ比較や各団体関係者の専門性を活かした意見交換などによるワークショップを開催した。
- ・ 講師は、Well-Being指標活用ファシリテーターである(株)スピーキングエッセイ 大嶋 友秀氏が務めた。
（デジタル庁「Well-Being指標活用ファシリテーター紹介・派遣事業」による）

【第1回 市職員向け】

- 日時：令和7年7月11日（金）10:00～17:00
- 場所：函館市役所
- 参加者：30人（40歳以下，6グループ×5人）
- 内容：Well-Being指標を活用したまちづくりについて理解を深めるほか、他都市とのデータ比較を応用したグループワークを実施



【第2回 地域関係者向け】

- 日時：令和7年7月27日（日）10:00～16:30
- 場所：北海道教育大学函館校
- 参加者：21人（うち市職員5人）
- 内容：Well-Being指標を活用したまちづくりについて理解を深めるほか、各団体関係者の専門性を活かした意見交換などのグループワークを実施



1. ワークショップ・ヒアリングについて

1-3. 開催概要②

■②未来デザインワークショップ（地域開催 6回・次世代人材対象 3回 計9回）

- ・市のホームページや広報紙，市内各所へのリーフレット配架等により広く市民から参加者を公募したワークショップ（各地域 計6回）に加え，次世代を担う若者（高校生，大学生，市インターンシップ実習生）を対象にしたワークショップ（計3回）を開催した。
- ・参加者のまちづくりにおける関心分野を考慮して少人数グループ（4～6人程度）を編成し，Well-Being指標を活用して本市の強みや弱み，将来像などについて自由闊達な意見交換を行い，模造紙を用いて発表・参加者間で共有した。

【話し合いテーマ】

- ・函館市の**強み**（今後も活かしたい点など）
- ・函館市の**弱み**（今後改善したい点など）
- ・**未来の函館**はどんなまちになってほしいか
- ・未来の函館のために**私たちができること**
- ・函館市の**将来像**

【グループ構成（分野①～④で班分け）】

- ・**分野①**：結婚，子育て，教育，人材育成
- ・**分野②**：地域経済（地元企業，雇用等），企業誘致，一次産業の振興（農林水産業），労働環境
- ・**分野③**：福祉，健康，生活，公共交通
- ・**分野④**：にぎわいの創出，観光，移住・定住，文化・スポーツ

【ワークショップ当日の流れ】

- ①事務局（市）から挨拶，趣旨・当日の流れ・基本構想・Well-Being指標等を説明
- ②グループ内で自己紹介，発表者等を決定
- ③第1ラウンド（個人ワーク）
⇒函館市の強みや弱み，未来の姿について参加者個人で指標を活用し分析，意見を整理
- ④第2ラウンド（グループワーク）
⇒第1ラウンドの検討結果をグループ内で共有，意見交換，付箋等を書き出し，模造紙作成
- ⑤全体発表・共有



（参加者募集リーフレット）

1. グループワーク・ヒアリングについて

1-3. 開催概要②



1-3. 開催概要③

■ ③グループヒアリング（中学校等 計4校）

・ 未来の函館について、次世代を担う中学生が抱えている率直な思いや願いなどを把握するため、市内4校の生徒会役員を対象としたグループヒアリングを実施

【ヒアリング実施校】

- 函館市立巴中学校（実施日：令和7年11月17日）
- 函館市立銭亀沢中学校（実施日：令和7年11月20日）

- 函館市立戸井学園（実施日：令和7年11月18日）
- 函館市立北中学校（実施日：令和7年11月27日）



2. 参加者意見

2. 参加者意見

2-1. Well-Beingワークショップ

Q1. 函館はどんなまちですか？

【強み（今後も活かしたい点など）】

- ・お金がかからず住みやすい
- ・居心地が良い
- ・都市・立地上のポテンシャルが高い
- ・医療・福祉施設が充実している
- ・公共交通を利用できる
- ・再活用できそうな建物が多い
- ・元気な高齢者が、仲間と様々な学びの場で芸術・文化・スポーツに親しんでいる

【弱み（今後改善したい点など）】

- ・若者が楽しく生活することが難しい（移動、遊び、買い物など）
- ・若者が希望する就職先が少ない、雇用創出に努力が必要
- ・健康寿命が短い
- ・人手不足
- ・雇用に関する満足度が低い
- ・子育て支援が手薄
- ・公共交通の利用者評価が低い、若年層や高齢者にやさしくない
- ・施設の魅力UPが足りない（SNS発信は行っているが…）
- ・デジタル弱者の高齢者が多い

Q2. 未来の函館はどんなまちになっていてほしいですか？

- ・住みやすさを活かした教育・仕事・子育てが好循環するまち
- ・雇用・所得を増やし、将来を安心して暮らし続けられるまち
- ・若者が流出しないまち
- ・魅力再生！

Q3. 未来の函館のために私たちができることは何ですか？

- ・周りの人に函館の良さ、課題を再認識してもらう
- ・まちの魅力を発信して共有する
- ・デジタル弱者をサポートする
- ・住民の主体形成。自分たちがこのまちを変えていく！
- ・なるべく地域の中でお金がまわるように生活する
- ・行政と対話する

2. 参加者意見

2-2-1. 未来デザインワークショップ（分野①）

Q1. 函館はどんなまちですか？

「分野①：結婚，子育て，教育，人材育成」

【強み（今後も活かしたい点など）】

教育環境・施設

- ・小学校・中学校・高校や高等教育機関（大学・専門学校など），教育施設が充実
- ・特色ある学びの機会（IT教育，地域学習（函館学）など）

観光，歴史，文化，芸術

- ・観光資源が豊富（夜景，お祭り，GLAYなど）
- ・豊かな歴史や文化・芸術（港まち，縄文など）

自然環境，食

- ・自然の恵み（海・山・きれいな空気など）
- ・過ごしやすい気候（夏は比較的過ごしやすく，冬は道内では雪が少ない）
- ・豊かな食

市民性，地域コミュニティ

- ・地元愛が強い
- ・地域コミュニティのつながり

その他

- ・治安が良い
- ・買い物の利便性
- ・医療が充実

【弱み（今後改善したい点など）】

子育て支援，子育て・教育環境

- ・子育て支援（支援内容，費用負担，情報発信など）
- ・保育園・幼稚園が少ない
- ・教育機会の不足・教育格差

人口減少，若者流出

- ・若者にとって魅力的な就職先が少ない
- ・所得水準が低い
- ・高校卒業後の進学先が限定的

生活環境

- ・娯楽施設や遊び場が少ない

その他

- ・公共交通が不便
- ・健康寿命が短い
- ・東部地域から高校に通うコストが高い

2. 参加者意見

2-2-2. 未来デザインワークショップ（分野②）

Q1. 函館はどんなまちですか？

「分野②：地域経済（地元企業、雇用等）、企業誘致、一次産業の振興（農林水産業）、労働環境」

【強み（今後も活かしたい点など）】

観光

- ・観光資源が豊富（夜景、温泉、歴史的建造物、お祭りなど）
- ・観光産業が盛ん

食

- ・豊富な水産資源（イカ、コンブ、ブリなど）
- ・農・水産業や加工業が盛ん
- ・日本酒・ワイン

教育機関、研究開発

- ・高等教育機関（大学や高専等）が多く、人材輩出がある
- ・大学発ベンチャーが多い

都市ブランド、知名度

- ・「函館」の高いブランド力・知名度

その他

- ・自然が豊か
- ・陸・海・空の交通の利便性が良い
- ・災害が少ない

【弱み（今後改善したい点など）】

企業、雇用

- ・就ける職種が限定的
- ・規模の大きい企業が少ない
- ・所得が低い
- ・雇用が少ない
- ・労働環境が悪い
- ・企業誘致が難しい

人口減少、人手不足

- ・若者をはじめとした人口減少
- ・一次産業（漁業等）の担い手・後継者不足

観光依存、オーバーツーリズム

- ・観光産業への依存度が高い
- ・オーバーツーリズムの弊害

その他

- ・公共交通が不便
- ・空き家が多い

2. 参加者意見（テキストマイニングで可視化）

2-2-2. 未来デザインワークショップ（分野②）

Q1. 函館はどんなまちですか？

「分野②：地域経済（地元企業，雇用等），企業誘致，一次産業の振興（農林水産業），労働環境」

ワークショップ分野②参加者の意見（函館市の強み・弱み）を基に，AIによるワードクラウドを生成（出現頻度を文字サイズで可視化）
※「函館」のような前提となる言葉を除外し，表現の違い（「小・中」と「小学校・中学校」など）は同義語として統合

【強み（今後も活かしたい点など）】



【弱み（今後改善したい点など）】



【凡例】
名詞
動詞
形容詞

※ユーザーローカル テキストマイニングによる分析（<https://textmining.userlocal.jp/>）

【意見の概要】

- ・ **強み**：「水産業」や「観光」などの基盤産業と，豊かな「自然」や高い「知名度」が主要な強みです。加えて，「高等教育機関」や「大学発ベンチャー」の集積なども，地域経済活性化の重要な資源として高く評価されています。
- ・ **弱み**：「人口減少」に加え，「仕事」に関する懸念が顕著です。特に「やりたい仕事」や「職種」の選択肢が乏しく，「雇用・所得」の低さが課題とされています。また，「観光頼み」の構造や「担い手不足」など，地域産業の脆弱さを指摘する意見も複数寄せられました。

2. 参加者意見

2-2-3. 未来デザインワークショップ（分野③）

Q1. 函館はどんなまちですか？

«分野③：福祉，健康，生活，公共交通»

【強み（今後も活かしたい点など）】

医療，福祉，健康

- ・医療機関・福祉施設が充実
- ・地域包括支援センターの相談体制
- ・市民の健康意識が高い

交通

- ・市外との交通アクセスが良い（空港，JR，港，フェリーなど）
- ・多様な公共交通機関（市電，バスなど）

生活環境

- ・まちがコンパクトで生活しやすい
- ・自然災害が少ない
- ・地域のつながりが強い
- ・ごみ収集形態が戸別収集（路線収集）

観光，食

- ・観光名所が多い
- ・食べ物がおいしい

その他

- ・二拠点生活者の増加

【弱み（今後改善したい点など）】

公共交通，移動手段

- ・公共交通が不便
- ・車がないと生活が不便（通院，通学，買い物など）

若者流出，人材不足

- ・若者にとって魅力的な就職先が少ない
- ・人材不足（医療・介護・福祉，バス運転手など）

医療，福祉

- ・健康寿命が短い
- ・健康診断の受診率が低い

生活環境

- ・娯楽（施設）が少ない
- ・子どもの遊び場が少ない

その他

- ・旧市内・東部地区間に格差（公共交通，医療機関，社会資源など）
- ・歩道・車道の整備状況
- ・町会加入率が低い
- ・つながりの希薄化

2. 参加者意見（テキストマイニングで可視化）

2-2-3. 未来デザインワークショップ（分野③）

Q1. 函館はどんなまちですか？

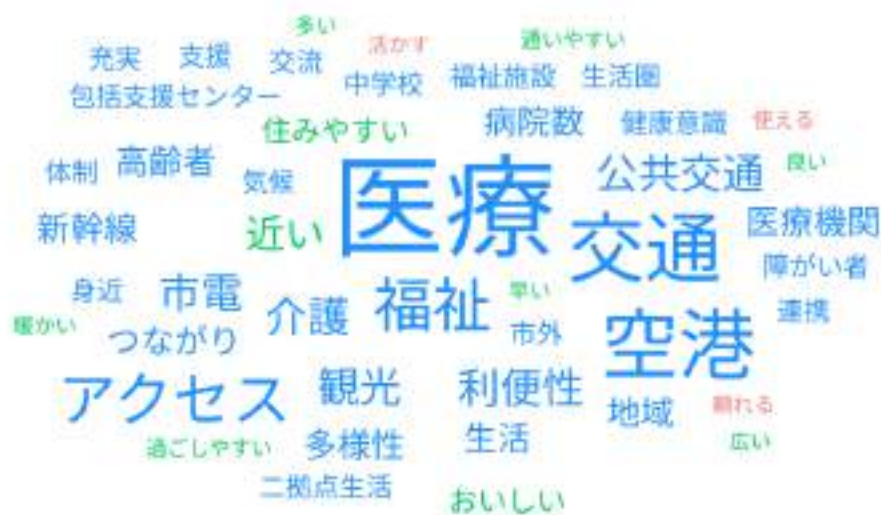
「分野③：福祉，健康，生活，公共交通」

ワークショップ分野③参加者の意見（函館市の強み・弱み）を基に，AIによるワードクラウドを生成（出現頻度を文字サイズで可視化）
※「函館」のような前提となる言葉を除外し，表現の違い（「小・中」と「小学校・中学校」など）は同義語として統合

【強み（今後も活かしたい点など）】

【弱み（今後改善したい点など）】

【凡例】
名詞
動詞
形容詞



※ユーザーローカル テキストマイニングによる分析（<https://textmining.userlocal.jp/>）

【意見の概要】

- ・ **強み**：「医療」や「福祉」体制の充実が最大の強みです。また，「空港」や「市電」など多様な「交通」手段へのアクセスの良さと，生活圏が「近い」コンパクトな都市機能が，暮らしやすさの基盤として評価されています。
- ・ **弱み**：「公共交通」の不便さと「地域間格差」が課題です。「東部地域」等の移動困難性や，「車」への依存に対する懸念が顕著です。また，「高齢化率」や「健康寿命」，「空き家」など，将来の生活基盤への不安も多く挙げられました。

2. 参加者意見

2-2-4. 未来デザインワークショップ（分野④）

Q1. 函館はどんなまちですか？

「分野④：にぎわいの創出，観光，移住・定住，文化・スポーツ」

【強み（今後も活かしたい点など）】

観光，歴史，文化

- ・観光資源が豊富
（夜景，五稜郭，景観，歴史的建造物，イベントなど）
- ・豊かな歴史
- ・まちの知名度が高い
- ・国内外の観光客が多い
- ・世界遺産（縄文遺跡）・国宝（カックウ）
- ・クルーズ客船がたくさん来る

生活環境

- ・自然が豊か・身近
- ・住みやすい

食

- ・食べ物がおいしい
- ・飲食店が多い

その他

- ・空港の利便性

【弱み（今後改善したい点など）】

人口減少，若者流出

- ・若者をはじめとした人口減少

地域経済

- ・若者にとって就職先の選択肢が少ない
- ・雇用が少ない

生活環境

- ・娯楽（施設）が少ない
- ・車がないと生活できない

観光

- ・外国人観光客への対応
- ・新たな観光スポット

その他

- ・公共交通が不便
- ・買物が不便
- ・道路環境が悪い
- ・行政の移住・定住施策が物足りない
- ・プロスポーツチームの誘致

2. 参加者意見（テキストマイニングで可視化）

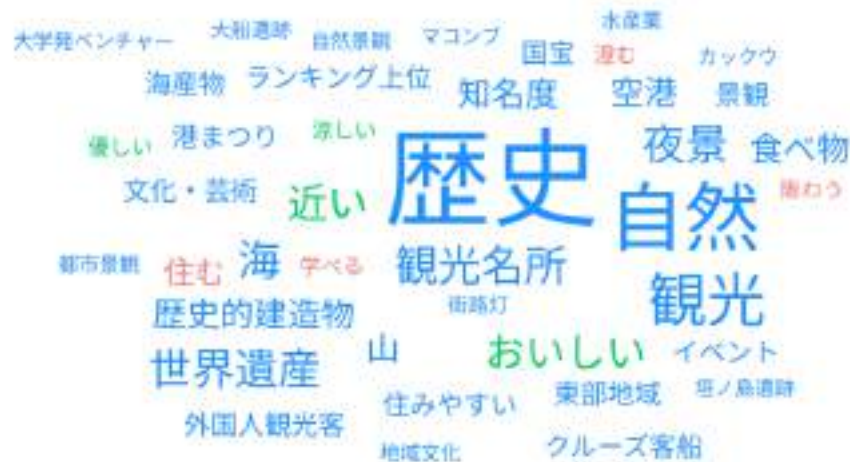
2-2-4. 未来デザインワークショップ（分野④）

Q1. 函館はどんなまちですか？

「分野④：にぎわいの創出，観光，移住・定住，文化・スポーツ」

ワークショップ分野④参加者の意見（函館市の強み・弱み）を基に，AIによるワードクラウドを生成（出現頻度を文字サイズで可視化）
※「函館」のような前提となる言葉を除外し，表現の違い（「小・中」と「小学校・中学校」など）は同義語として統合

【強み（今後も活かしたい点など）】



【弱み（今後改善したい点など）】



【凡例】
名詞
動詞
形容詞

※ユーザーローカル テキストマイニングによる分析（<https://textmining.userlocal.jp/>）

【意見の概要】

- ・ **強み**：「歴史」や「自然」，「夜景」などの豊富な観光資源が最大の強みです。「世界遺産」等の文化資産や「おいしい」食に加え，それらが「近い」距離にあるコンパクトな都市構造が，観光や移住・定住での魅力として高く評価されました。
- ・ **弱み**：「人口減少」が最大の課題として挙がりました。特に「雇用」や「生活」の不足が「若者」の流出要因として危惧されるほか，「東部地域」における生活・移動の「不便」さも地域課題として指摘されています。

2. 参加者意見

2-2-5. 未来デザインワークショップ

Q2. 未来の函館はどんなまちになってほしいですか？

【分野①：結婚，子育て，教育，人材育成】

- ・安心して子育てできるまち
（充実した子育て支援，安定した雇用，利便性の高い公共交通など）
- ・若者や子どもたちが住み続けたいと思えるまち
- ・進学や就職を機に函館を離れても，戻ってきたいと思えるまち
- ・子どもや若者が多様な選択肢・可能性を持てるまち
- ・郷土愛や文化を受け継ぐまち
- ・他者とつながり，心豊かに幸せを感じられるまち
- ・自然の恵みや地域とのつながりを活かした教育が充実したまち

【分野③：福祉，健康，生活，公共交通】

- ・高齢になっても安心・充実して暮らせるまち
（医療・福祉・介護の充実，社会参加，利便性の高い公共交通など）
- ・思いやり・助け合い・支え合いが浸透したまち
- ・車がなくても生活しやすいまち
（利便性の高い公共交通，AI活用，歩道・自転車専用道路の整備など）
- ・若い人が住み続けたいと思えるまち
- ・健康づくりに積極的なまち
- ・世代や背景に関わらず，誰もが住みやすく生活しやすいまち
- ・多世代交流が盛んなまち
- ・市街地と郊外に地域格差がないまち
（幸福度，医療・福祉，交通など）
- ・若者世代の意見に耳を傾けられるまち

【分野②：地域経済，企業誘致，一次産業の振興，労働環境】

- ・人口が増えて活気や活力があるまち
- ・所得水準が上がり，雇用が充実・安定しているまち
- ・新しいことに挑戦できる，新しいものを取り入れるまち
- ・やりたい仕事・やりがいのある仕事に就けるまち
- ・観光消費などが地域内で好循環するまち
- ・魅力的な企業を誘致できるまち
- ・第一次産業が強化されたまち
- ・外国人など多様な人が働きやすいまち
- ・大学発ベンチャー支援が充実したまち
- ・娯楽・商業施設が充実したまち
- ・函館だからできるを探せるまち

【分野④：にぎわいの創出，観光，移住・定住，文化・スポーツ】

- ・移住したくなるまち（移住支援・雇用の充実，交流の場づくりなど）
- ・若者が住み続けたい，帰ってきたいと思えるまち
（雇用・娯楽・商業施設などの充実，奨学金補助，理系の就職先増など）
- ・都市景観や歴史的建造物，地域文化を大切にするまち
- ・人口が増えて賑やかなまち
- ・観光の賑わいと豊かな市民生活が両立するまち
- ・心の豊かさや，まちへの誇りが育まれるまち
- ・自然やITなどを活かした取組が多いまち
- ・子どもや子育て世代が増えるまち
（学校・大学の誘致，雇用の充実など）
- ・第一次産業と観光を結びつける仕組みがあるまち

2. 参加者意見

2-2-6. 未来デザインワークショップ

Q3. 未来の函館のために私たちができることは何ですか？

【分野横断的な意見】

- ・ 函館を理解して知る
- ・ 様々な情報を知る
- ・ 函館の現状を受け止めて自分の考えを持つ
- ・ 「私でできることなら・・・」を重ねみんなへ広げる
- ・ 職場や学校などのコミュニティで発信する
- ・ 選挙に行く
- ・ 地域に関心を持つ、関心を持つ人を増やす→選挙を大切に
- ・ 市政に関心を持つ
- ・ 市政への参画意識を高める
- ・ 「市民の声」を活用するなど、声をあげ続ける
- ・ 市議会に積極的に参加する
- ・ 各学校で意見を出す場を作る、市民からの意見を募る
- ・ 市民の声を多く集めて市へ提言、法整備につなげる
- ・ 昭和の人たち、平成の人たち、令和の人たち、みんな仲良く！！

【分野①：結婚，子育て，教育，人材育成】

- ・ 結婚する
- ・ 子どもを大切にする
- ・ 子どもたちに一つでも良いものを残す
- ・ 子どもたちの未来が良くなるよう考え行動する
- ・ 「ちょうど良いまち」を口コミ，SNSで草の根的に広める
- ・ 一人ひとりが函館市民として自覚を持とう！
- ・ 子どもの時から函館の良さを学ぼう！
- ・ 大人は子どもに函館の魅力を伝えよう！
- ・ 高校生と園児が交流する機会を増やす
- ・ 背中を見せる！
- ・ 何事も行動で示す
- ・ 勉強する
- ・ 函館をフィールドに研究する
- ・ 若者と地域の人々などが交流できる機会を増やす
- ・ 高校の地域探求学習を通じて、いいところマップを作成する
- ・ 様々な世代，親，先生から若者へ情報発信する
- ・ NPO法人を立ち上げる
- ・ クラウドファンディングを活用する

【分野②：地域経済，企業誘致，一次産業の振興，労働環境】

- ・ 函館で買い物や函館の企業を利用して地域経済を回す
- ・ 地産地消
- ・ 函館で働く，函館の企業に就職する
- ・ 函館で働いてまちの活性化に協力する
- ・ 「函館で働く」とをまずは考える
- ・ 函館の企業等のインターンシップに参加する
- ・ 函館市内の会社説明会などに行き、若い人を呼び寄せる
- ・ 若い世代へ仕事のやりがいを継承する
- ・ 挑戦する人を応援する
- ・ 起業する
- ・ 若者が起業しやすい場を作る
- ・ 企業と学校の連携を深める
- ・ お金を使うように伝える
- ・ 魚種の変化に対応する
- ・ アメリカオニアザミをやっつける！！
- ・ 仲間を集める
- ・ やりがいを見つける
- ・ 人にやさしくする

2. 参加者意見

2-2-7. 未来デザインワークショップ

Q3. 未来の函館のために私たちができることは何ですか？

【分野③：福祉，健康，生活，公共交通】

- ・職場にボランティアを導入する
- ・地域のことを把握し，身近な人などに声かけする
- ・健康意識を高める
- ・健康診断を受診する
- ・健康に生きる
- ・ゴミ拾いをする，ゴミのポイ捨てをしない
- ・マナー・モラル・ルールを守る
- ・町会に加入する
- ・町会を再活性化する
- ・住民同士のつながりを作る（町会加入，防災対策）
- ・地域コミュニティ（町会，祭りなど）に積極的に参加する
- ・人とのつながりを作る
- ・住民同士のつながり，地域力を高める
- ・「地域も元気」↔「自分も元気」の二刀流
- ・地域課題などを自分ごとと考える
- ・人が集まれる環境・コミュニティをつくる
- ・多世代コミュニケーションがとれる場をつくる
- ・多様な人を受け入れる
- ・色々な世代の人たちと意見を交わす
- ・積極的に意見交換会などに参加する
- ・まちの魅力となるような住民生活を行う
- ・生活の安定と心のうるおいを持つ
- ・継続して今の職場で地域貢献する
- ・本当の豊かさとは何かを追求した暮らしをする
- ・近所の人たちと仲良くする
- ・エコ活動を行う
- ・安全運転をする
- ・積極的に公共交通機関を利用する

【分野④：にぎわいの創出，観光，移住・定住，文化・スポーツ】

- ・活性化に貢献したいと思っている人はたくさんいるはず
その点を線でつなく活動をする
- ・イベントに積極的に参加する
- ・イベントを人に紹介する
- ・地域会館や地域センターを活用し，ワークショップや子育てサロン関係，キッチンカーの出店などを行い，地域の幸福度を向上させる
- ・モルック大会などのイベントを実施する
- ・南茅部でGW期間中などに屋台などを開く
- ・ミニ水族館をつくる
- ・SNS等を活用して函館の魅力や情報を発信する
- ・地域住民自身が「〇〇な街にしたい！」という思いをもって発信！
（自由な発想で！）
- ・函館市民が観光宣伝の意識を持つ
- ・観光客と地元民のつながりの場をつくる
- ・観光資源を再発見する
- ・住民（地元民）自身が地域に誇りを持つ
- ・二拠点居住を勧める
- ・移住者から函館のまちの良さ，課題を教えてもらう
- ・移住サポーター・地域おこし協力隊として，
函館や地域のPR活動を頑張る！
- ・Uターン移住者の成功例を発信する
- ・函館の文化について知る

2. 参加者意見

2-2-8. 未来デザインワークショップ

Q4. 函館の将来像（キャッチフレーズ）を考えてください

【分野①：結婚，子育て，教育，人材育成】

- ・はこそだてマラソン！
光の街はこだて 未来の灯は誰が灯すのか？
- ・帰ってきたい町にする
- ・キラキラ輝け！子どもの未来！
- ・誰もが明るく幸せで活力のまるまち
- ・様々な世代が住み続けられるまち
- ・ちょうどよい田舎
- ・世代を越えてつながり愛着をもって定住する！！
- ・楽しさをつなぐ 戻りたくなるまち

【分野②：地域経済，企業誘致，一次産業の振興，労働環境】

- ・新しいことにチャレンジできるまち
- ・生産・消費・雇用の好循環シティ
- ・住みやすく安心して働けるマチ
- ・お金が地域で循環し，若者が笑顔で活力あるまち
- ・「地域で経済を回す」
～ここに住む人が安心して住み続ける～
- ・都会と田舎のハイブリッド～雇用機会と自然にあふれる町～
- ・地元企業で働きたくなるまち

【分野③：福祉，健康，生活，公共交通】

- ・「知らない」「わからない」がない街函館
みんなが函館に関心を！！そうだ！！選挙に行こう
- ・自他ともに健康な人が多いまち
- ・変わらずステキなまち
- ・住んでいる人々が豊かなまち函館！
- ・100歳でも活躍できるまち
- ・「希望にあふれるまち函館」
- ・世代を支えるスムーズな交通と医療体制
- ・子どもから高齢者までお祭りさわぎなまち
- ・！函境改革！

【分野④：にぎわいの創出，観光，移住・定住，文化・スポーツ】

- ・生活の安定と心の潤い アートが楽しめる街ハコダテ
- ・公共交通の充実化（賑わい，住みやすい）
- ・地元を盛り上げよう！
- ・関係人口の向上，若者とセカンドキャリアの方々が働きやすく，生活しやすいまちをめざす
- ・様々な世代の意見を取り入れ，弱みを改善することで，地元の雇用を増やしていく
- ・「幸福度・住みやすい街 全国ランキング1位」
好きですHAKODATE
- ・Beautiful City HAKODATE
- ・住んでみないイカ？函館に！

2. 参加者意見

2-3-1. グループヒアリング（中学生対象）

Q1. 函館はどんなまちですか？

【強み（今後も活かしたい点など）】

観光

- ・観光客が多い（国内・国外）
- ・観光スポット・観光名所が多い
（夜景，函館・五稜郭公園，五稜郭タワー，朝市，歴史的建造物）

食

- ・食べ物がおいしい（海産物，ラーメン，イカ）
- ・函館にしかないグルメがある

自然

- ・海や山が近くて自然が豊か
- ・四季を感じられる
- ・空気が澄んでいる

歴史，文化

- ・歴史がある
- ・みんなで楽しめる文化がある
（港まつり，クリスマスファンタジーなど）
- ・いか踊りが函館の伝統として引き継がれている
- ・お祭りが伝統より楽しさを重視している

生活環境

- ・静かで過ごしやすい
- ・街並がきれい
- ・子育て環境が充実している
- ・待機児童がゼロ
- ・公共交通の種類が多い
- ・誰にでも親切に話しかける

【弱み（今後改善したい点など）】

娯楽，商業

- ・遊ぶところがない・少ない
- ・若者が楽しめる娯楽・商業施設が少ない
- ・お店の閉店時間が早い

移動，交通

- ・公共交通など移動手段が不便
- ・道路の状態が悪い（老朽化，複雑，混雑）
- ・冬は雪が多くて移動が大変
- ・旧4町村から高校へのアクセスが悪い

生活環境

- ・ゴミのポイ捨てが多い（歩道，海岸など）
- ・観光メインのまちづくりで，市民にとって便利ではない
- ・川や海が近いのに遊べる場所が少ない
- ・除雪が甘い
- ・空き家が多い
- ・火事が多い
- ・地域格差が大きい
 - ・中心部：施設や交通機関が充実している
 - ・旧4町村：バスの便数が減り，商業施設も少ない

観光

- ・若者の観光客が少ない
- ・季節によって観光客数に偏りがある

その他

- ・人口が急激に減っている
- ・大学・就職先が少ない

2. 参加者意見

2-3-2. グループヒアリング（中学生対象）

Q2. 未来の函館はどんなまちになってほしいですか？

観光・イベント

- ・魅力的なイベントが多いまち
（魅力：新規性，参加型，学生主体，雪を活用，早い時間帯，自宅からの距離の近さなど）
- ・観光客に選ばれるまち
（温泉や自然を活かしたツアー造成，アクセス向上など）
- ・新たな観光スポットを生み出せるまち
- ・SNSを活用して国内外にまちの魅力をPRできるまち

まちづくり

- ・若者にとって魅力があるまち
（魅力：娯楽，ショッピングモール，職種，賃金，住居，学校，遊園地，水族館，スポーツ施設など）
- ・いつまでも住み続けたいと思えるまち
- ・市民向けのサービスや施策が充実しているまち
- ・街中が活気づき全世代が盛り上がるまち
- ・子育て環境が充実しているまち
- ・公共交通をはじめ交通手段が充実しているまち
- ・市内のどこに住んでいても買い物等に不便を感じないまち
- ・市民・地域・自治体間のつながりや交流が盛んなまち
- ・SDGsの取組を推進しているまち
- ・まちの風景が変わらないまち
- ・空き家を有効に活用しているまち（リノベーション後に宿泊施設や飲食店などに活用）
- ・火災予防が徹底されたまち
- ・道路の標識が見やすく改善しているまち
- ・学校や地域でICT活用が進んでいるまち

地域経済

- ・産業が発展したまち
- ・大手IT企業等の企業誘致を推進しているまち
- ・イカ以外の特産物を開発できるまち

生活環境

- ・ポイ捨てが少なく清潔なまち
- ・困っている人に話しかけるなど，思いやりのある人が多いまち

2. 参加者意見

2-3-3. グループヒアリング（中学生対象）

Q3. 未来の函館のために私たちができることは何ですか？

地域活動・交流

- ・地域の行事やイベントに参加する
- ・地域のつながりを深める
- ・ゴミ拾いなどのボランティア活動を行う
- ・声かけ活動を行う

魅力発信

- ・SNSを活用して函館の魅力を発信する（観光スポットや食べ物など）
- ・カラフルな目立つポスターを作成して函館をPRする
- ・小学生にポスターを作ってもらいSNSで周知する

生活環境

- ・困っている人がいたら話しかける
- ・ゴミを減らすなど環境にやさしい行動をする
- ・ごみポイ捨て防止ポスターをつくる

自然

- ・山に木を植える
- ・自然保護活動を行う

まちづくり

- ・学生が魅力を感じるものを増やす
- ・小さい子どもでも楽しく遊ぶことができる場所をつくる（空き家も活用）

経済、観光

- ・観光客向けのものを自分でも体験してみる
- ・地元のを積極的に購入し、そのお金で新しい若者向け施設をつくる
- ・観光客に、函館がより良いまちになるにはどうしたら良いか相談する
- ・港まつり中にゴミ箱をたくさん設置する

その他

- ・函館に関心を持つ
- ・函館のことをもっと知る
- ・自分たちの意見を市役所に伝える
- ・まちの課題改善のために、HPを作りアンケート調査を行う

Well-Being (地域幸福度) 指標

※本資料は、R7年度末時点の情報を参考に作成しています。

・基準：全国平均値50

・函館市 60以上 ⇒ **強み:赤** 40以下 ⇒ **弱み:青**

【函館市に関するデータ】

地域幸福度(Well-Being)とは

アンケートによる「主観」データと、各種オープンデータによる「客観」データをバランス良く活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感」を指標で偏差値化・可視化したものです。まちの特徴を俯瞰で捉え、地域の政策立案に活用することを目的として、デジタル庁で公開しています。アンケート調査では1,487名から回答がありました。

【主観指標と客観指標について】 ※デジタル庁ホームページより

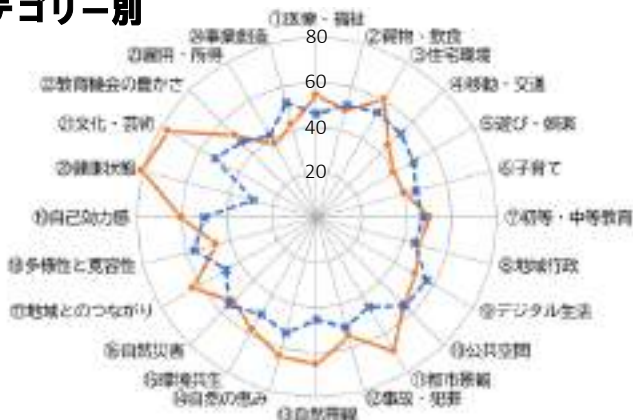
主観指標：アンケートによる主観データ

- ・各自治体が集めたアンケートデータをもとにしている
- ・「幸福感(Well-Being)」を算出したもの
- ・時系列での比較に強い

客観指標：オープンデータによる客観データ

- ・各種オープンデータ等をもとにしている
- ・「暮らしやすさ」を測定したもの
- ・分野間などの比較に用いる

カテゴリー別



Well-Being 指標
ダッシュボード

— : 主観指標(アンケート)
— : 客観指標(オープンデータ)

区分	因子	主観	客観
生活環境	①医療・福祉	54.2	45.9
	②買物・飲食	49.2	51.4
	③住宅環境	60.1	53.5
	④移動・交通	45.2	52.6
	⑤遊び・娯楽	39.2	49.4
	⑥子育て	40.6	45.2
	⑦初等・中等教育	50.3	47.1
	⑧地域行政	47.1	44.7
	⑨デジタル生活	50.4	56.2
	⑩公共空間	54.7	55.2
	⑪都市景観	68.8	46.1
	⑫事故・犯罪	54.6	50.4
	⑬自然景観	65.1	45.7
	⑭自然の恵み	63.6	53.3
	⑮環境共生	57.8	49.9
	⑯自然災害	52.4	54.9
地域の人間関係	⑰地域とのつながり	63.2	46.7
	⑱多様性と寛容性	46.3	56.0
自分らしい生き方	⑲自己効力感	60.3	49.9
	⑳健康状態	80.0	29.1
	㉑文化・芸術	76.0	52.3
	㉒教育機会の豊かさ	51.5	47.4
	㉓雇用・所得	37.1	41.9
	㉔事業創造	42.7	52.5

幸福度 平均値 6.6

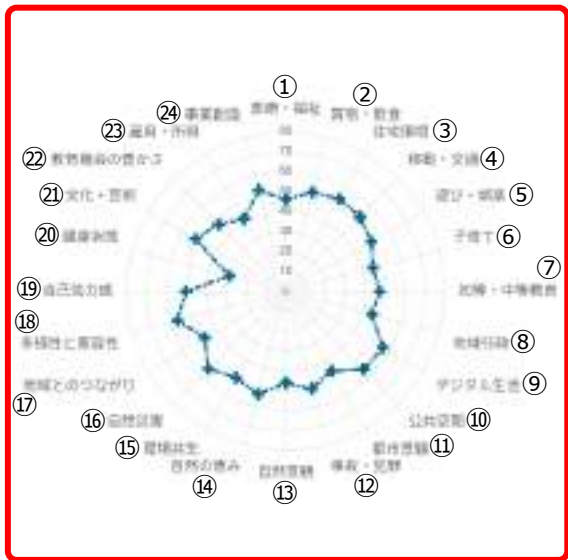
生活満足度 平均値 6.2

10～60の間で10を超過する11件法	回答割合
とても幸せ=10	11.4
9	6.9
8	20.9
7	18.2
6	10.0
5	20.2
4	4.8
3	4.8
2	2.4
1	6.5
とても不幸=0	0.8

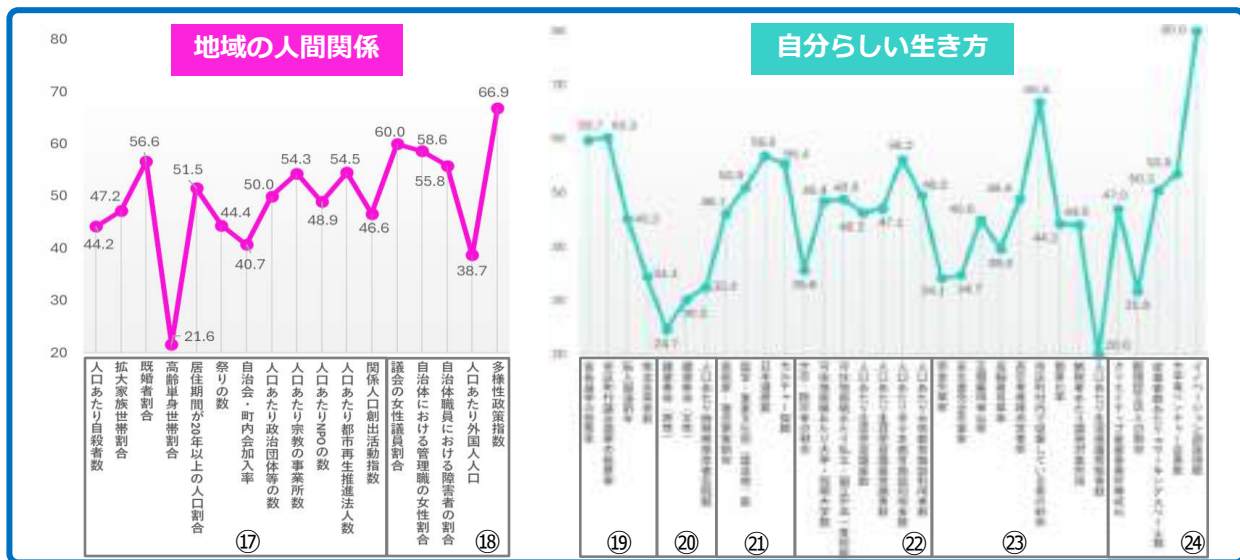
10～60の間で10を超過する11件法	回答割合
とても満足=10	8.0
9	2.8
8	17.5
7	24.4
6	22.6
5	22.0
4	6.7
3	1.3
2	2.6
1	1.6
とても不満足=0	1.3

函館市の客観指標 (オープンデータによる客観データ)

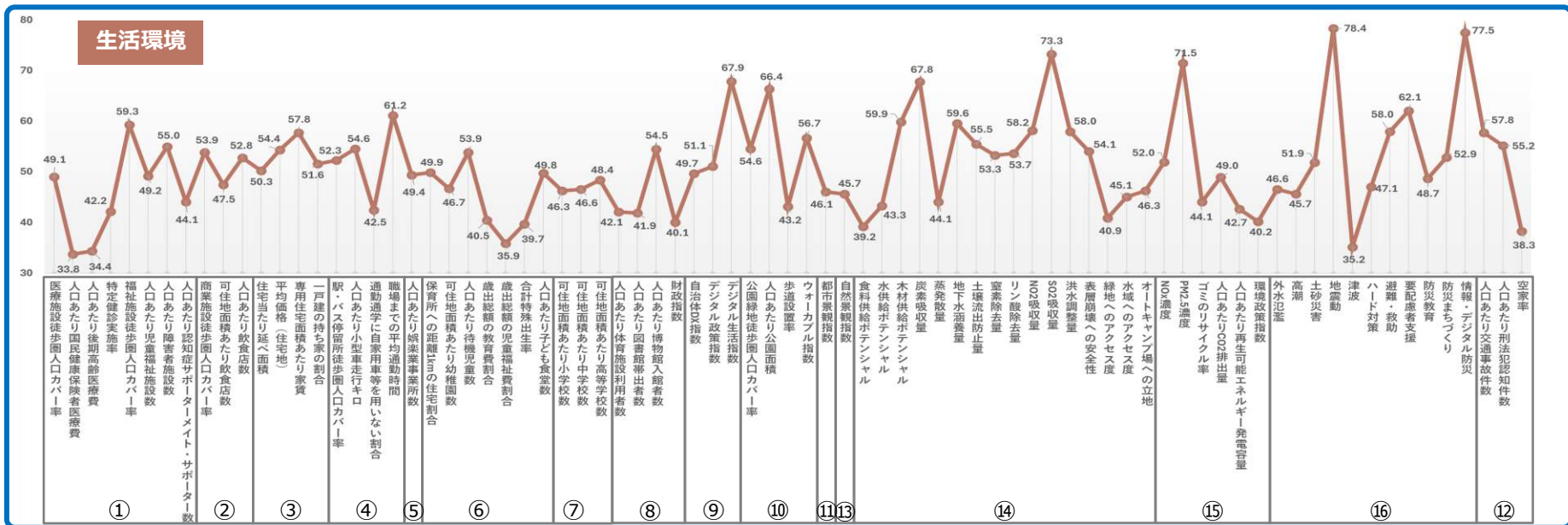
24のカテゴリー別チャート



24のカテゴリーを3つの因子群に細分化



生活環境

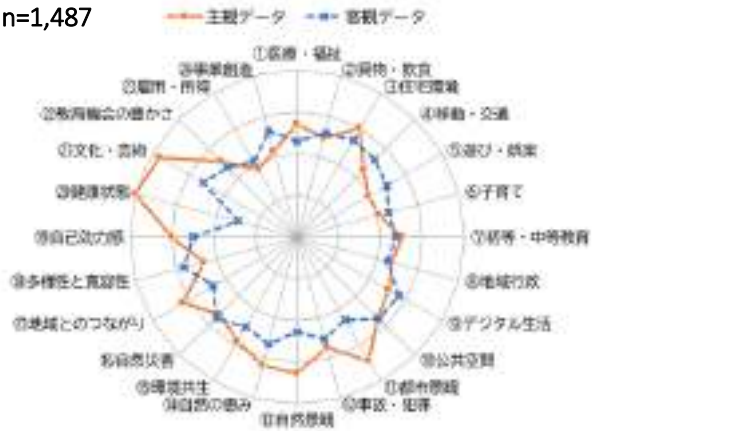


※ 数値は偏差値 (全国平均 = 50)

R6年度実施 Well-Being指標に関するアンケート調査結果

【函館市に関する主観・客観評価 年代別グラフ一覧】

全体: n=1,487



地域幸福度 (Well-Being) 指標とは

各種統計データを用いた「客観指標」と、アンケート調査を行う「主観指標」のデータをバランス良く活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感」を指標で偏差顕化・可視化したものです。まちの特徴を俯瞰で捉え、地域の政策立案に活用することを目的として、デジタル庁で公開しています。今回のアンケート調査では、1,487名から回答がありました。

【客観指標と主観指標について】※ デジタル庁ホームページより

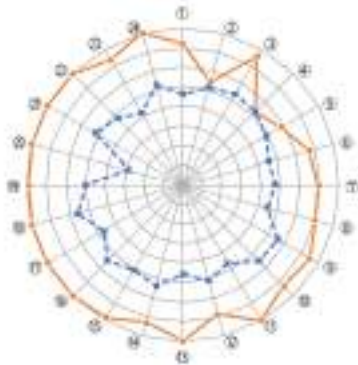
客観指標：オープンデータによる客観データ

- ・各種オープンデータ等をもとにしている
- ・「暮らしやすさ」を算出したもの
- ・分野間などの比較に用いる

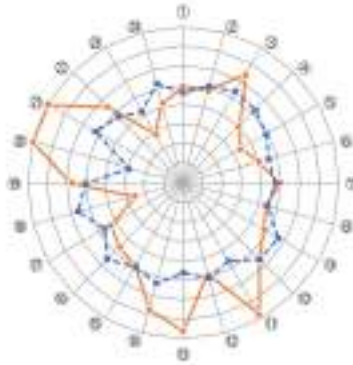
主観指標：アンケートによる主観データ

- ・各自治体が集めたアンケートデータをもとにしている
- ・「幸福感 (Well-being)」を算出したもの
- ・時系列での比較に強い

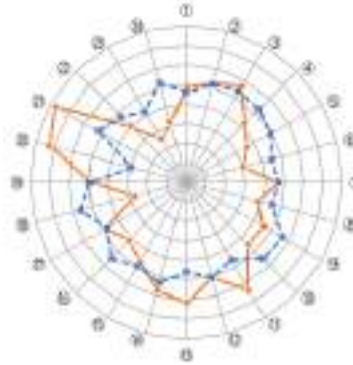
10代 (n=303)



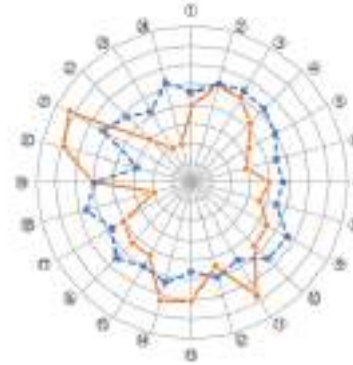
20代 (n=168)



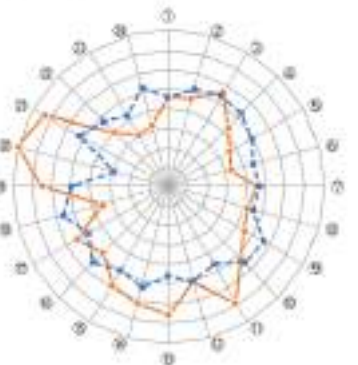
30代 (n=183)



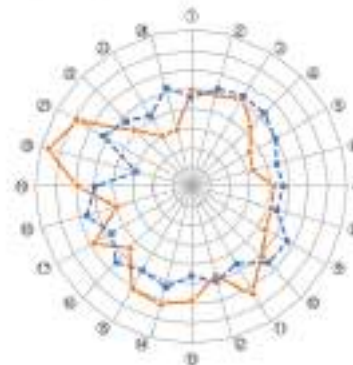
40代 (n=170)



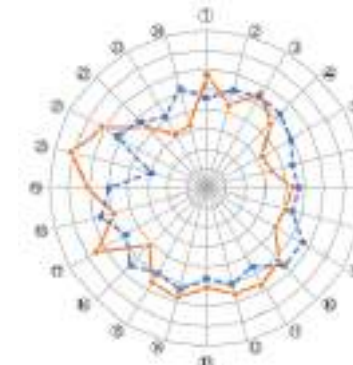
50代 (n=172)



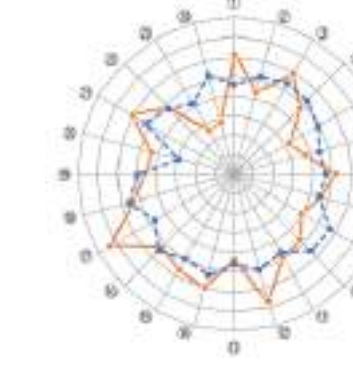
60代 (n=187)



70代 (n=190)



80歳以上 (n=105)



※全体の集計には、年代無回答の方 (n=9) が含まれています。

R6年度実施 Well-Being指標に関するアンケート調査結果

【函館市に関する主観・客観評価 年代別分析】

A 主観指標と客観指標がともに 50 未満 の分野

C 主観指標が 50 以上, 客観指標が 50 未満 の分野

B 主観指標が 50 未満, 客観指標が 50 以上 の分野

D 主観指標と客観指標がともに 50 以上 の分野

全体：n=1,487

10代：n=303

20代：n=168

30代：n=183

	客観 50 未満	客観 50 以上
主観 50 以上	C ①医療・福祉 ⑦初等・中等教育 ⑪都市景観 ⑬自然景観 ⑮環境共生 ⑰地域とのつながり ⑲自己効力感 ⑳健康状態 ㉒教育機会の豊かさ	D ③住宅環境 ⑨デジタル生活 ⑩公共空間 ⑫事故・犯罪 ⑭自然の恵み ⑯自然災害 ㉑文化・芸術
	A ⑤遊び・娯楽 ⑥子育て ⑧地域行政 ㉓雇用・所得	B ②買物・飲食 ④移動・交通 ⑥多様性と寛容性 ㉔事業創造
主観 50 未満	A ⑤遊び・娯楽 ⑥子育て ⑧地域行政 ㉓雇用・所得	B ②買物・飲食 ④移動・交通 ⑥多様性と寛容性 ㉔事業創造

	客観 50 未満	客観 50 以上
主観 50 以上	C ①医療・福祉 ⑤遊び・娯楽 ⑥子育て ⑦初等・中等教育 ⑧地域行政 ⑪都市景観 ⑬自然景観 ⑮環境共生 ⑰地域とのつながり ⑲自己効力感 ⑳健康状態 ㉒教育機会の豊かさ ㉓雇用・所得	D ②買物・飲食 ③住宅環境 ④移動・交通 ⑧デジタル生活 ⑩公共空間 ⑫事故・犯罪 ⑭自然の恵み ⑯自然災害 ⑰多様性と寛容性 ㉑文化・芸術 ㉒事業創造
	A	B
50 未満	A	B

	客観 50 未満	客観 50 以上
主観 50 以上	C ⑪都市景観 ⑬自然景観 ⑲自己効力感 ⑳健康状態 ㉒教育機会の豊かさ	D ③住宅環境 ⑩公共空間 ⑭自然の恵み ㉑文化・芸術
	A ①医療・福祉 ⑤遊び・娯楽 ⑥子育て ⑦初等・中等教育 ⑧地域行政 ⑮環境共生 ⑰地域とのつながり ㉓雇用・所得	B ②買物・飲食 ④移動・交通 ⑨デジタル生活 ⑫事故・犯罪 ⑬自然災害 ⑰多様性と寛容性 ㉒事業創造
主観 50 未満	A ①医療・福祉 ⑤遊び・娯楽 ⑥子育て ⑦初等・中等教育 ⑧地域行政 ⑮環境共生 ⑰地域とのつながり ㉓雇用・所得	B ②買物・飲食 ④移動・交通 ⑨デジタル生活 ⑫事故・犯罪 ⑬自然災害 ⑰多様性と寛容性 ㉒事業創造

	客観 50 未満	客観 50 以上
主観 50 以上	C ⑪都市景観 ⑬自然景観 ⑳健康状態	D ②買物・飲食 ③住宅環境 ⑫事故・犯罪 ⑭自然の恵み ㉑文化・芸術
	A ①医療・福祉 ⑤遊び・娯楽 ⑥子育て ⑦初等・中等教育 ⑧地域行政 ⑮環境共生 ⑰地域とのつながり ⑲自己効力感 ㉒教育機会の豊かさ ㉓雇用・所得	B ④移動・交通 ⑨デジタル生活 ⑩公共空間 ⑬自然災害 ⑰多様性と寛容性 ㉒事業創造
主観 50 未満	A ①医療・福祉 ⑤遊び・娯楽 ⑥子育て ⑦初等・中等教育 ⑧地域行政 ⑮環境共生 ⑰地域とのつながり ⑲自己効力感 ㉒教育機会の豊かさ ㉓雇用・所得	B ④移動・交通 ⑨デジタル生活 ⑩公共空間 ⑬自然災害 ⑰多様性と寛容性 ㉒事業創造

40代：n=170

50代・60代：n=359

70代：n=190

80歳以上：n=105

	客観 50 未満	客観 50 以上
主観 50 以上	C ⑪都市景観 ⑬自然景観 ⑳健康状態	D ②買物・飲食 ⑭自然の恵み ㉑文化・芸術
	A ①医療・福祉 ⑤遊び・娯楽 ⑥子育て ⑦初等・中等教育 ⑧地域行政 ⑮環境共生 ⑰地域とのつながり ⑲自己効力感 ㉒教育機会の豊かさ ㉓雇用・所得	B ③住宅環境 ④移動・交通 ⑨デジタル生活 ⑩公共空間 ⑫事故・犯罪 ⑬自然災害 ⑰多様性と寛容性 ㉒事業創造
主観 50 未満	A ①医療・福祉 ⑤遊び・娯楽 ⑥子育て ⑦初等・中等教育 ⑧地域行政 ⑮環境共生 ⑰地域とのつながり ⑲自己効力感 ㉒教育機会の豊かさ ㉓雇用・所得	B ③住宅環境 ④移動・交通 ⑨デジタル生活 ⑩公共空間 ⑫事故・犯罪 ⑬自然災害 ⑰多様性と寛容性 ㉒事業創造

	客観 50 未満	客観 50 以上
主観 50 以上	C ⑪都市景観 ⑬自然景観 ⑮環境共生 ⑰地域とのつながり ⑲自己効力感 ⑳健康状態	D ③住宅環境 ⑩公共空間 ⑭自然の恵み ㉑文化・芸術
	A ①医療・福祉 ⑤遊び・娯楽 ⑥子育て ⑦初等・中等教育 ⑧地域行政 ㉒教育機会の豊かさ ㉓雇用・所得	B ②買物・飲食 ④移動・交通 ⑨デジタル生活 ⑫事故・犯罪 ⑬自然災害 ⑰多様性と寛容性 ㉒事業創造
主観 50 未満	A ①医療・福祉 ⑤遊び・娯楽 ⑥子育て ⑦初等・中等教育 ⑧地域行政 ㉒教育機会の豊かさ ㉓雇用・所得	B ②買物・飲食 ④移動・交通 ⑨デジタル生活 ⑫事故・犯罪 ⑬自然災害 ⑰多様性と寛容性 ㉒事業創造

	客観 50 未満	客観 50 以上
主観 50 以上	C ①医療・福祉 ⑪都市景観 ⑬自然景観 ⑮環境共生 ⑰地域とのつながり ⑲自己効力感 ⑳健康状態	D ③住宅環境 ⑩公共空間 ⑫事故・犯罪 ⑭自然の恵み ㉑文化・芸術
	A ⑤遊び・娯楽 ⑥子育て ⑦初等・中等教育 ⑧地域行政 ㉒教育機会の豊かさ ㉓雇用・所得	B ②買物・飲食 ④移動・交通 ⑨デジタル生活 ⑬自然災害 ⑰多様性と寛容性 ㉒事業創造
主観 50 未満	A ⑤遊び・娯楽 ⑥子育て ⑦初等・中等教育 ⑧地域行政 ㉒教育機会の豊かさ ㉓雇用・所得	B ②買物・飲食 ④移動・交通 ⑨デジタル生活 ⑬自然災害 ⑰多様性と寛容性 ㉒事業創造

	客観 50 未満	客観 50 以上
主観 50 以上	C ①医療・福祉 ⑦初等・中等教育 ⑮環境共生 ⑰地域とのつながり	D ③住宅環境 ⑫事故・犯罪 ⑭自然の恵み ⑬自然災害 ⑰多様性と寛容性 ㉑文化・芸術
	A ⑤遊び・娯楽 ⑥子育て ⑧地域行政 ⑪都市景観 ⑬自然景観 ⑲自己効力感 ⑳健康状態 ㉒教育機会の豊かさ ㉓雇用・所得	B ②買物・飲食 ④移動・交通 ⑨デジタル生活 ⑩公共空間 ㉒事業創造
主観 50 未満	A ⑤遊び・娯楽 ⑥子育て ⑧地域行政 ⑪都市景観 ⑬自然景観 ⑲自己効力感 ⑳健康状態 ㉒教育機会の豊かさ ㉓雇用・所得	B ②買物・飲食 ④移動・交通 ⑨デジタル生活 ⑩公共空間 ㉒事業創造

※全体の集計には、年代無回答の方 (n=9) が含まれています。

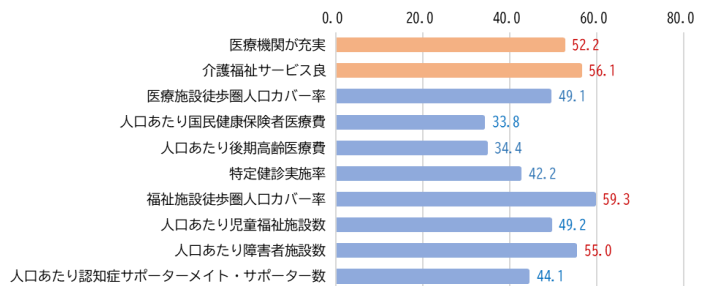
- ・すべての年代で「自然の恵み」、「文化芸術」の偏差値が主観指標、客観指標ともに50以上
- ・40代を除くすべての世代で「住宅環境」の偏差値が主観指標、客観指標ともに50以上
- ・10代,20代では「教育機会の豊かさ」の主観指標の偏差値が50以上（その他の年代は50未満）、客観指標の偏差値は50未満
- ・80歳以上を除くすべての年代で「都市景観」、「自然景観」、「健康状態」の主観指標の偏差値が50以上、客観指標の偏差値は50未満
- ・10代を除くすべての年代で「移動・交通」、「デジタル生活」、「事業創造」の主観指標の偏差値が50未満、客観指標の偏差値は50以上
- ・10代を除くすべての年代で「遊び・娯楽」、「子育て」、「地域行政」、「雇用・所得」の偏差値が主観指標、客観指標ともに50未満

R6年度実施 Well-Being指標に関するアンケート調査結果

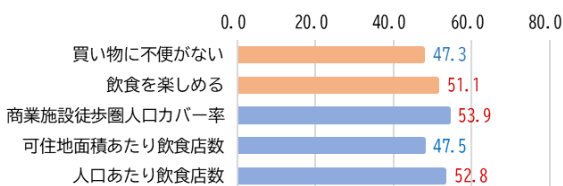
【函館市に関する主観・客観評価の詳細①】

主観指標
客観指標

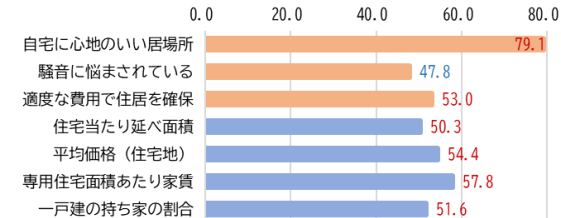
①医療・福祉



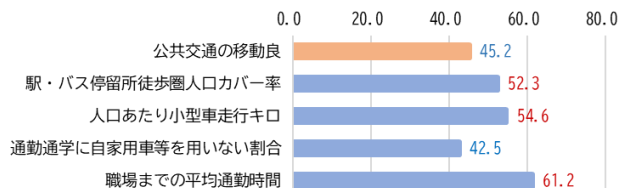
②買物・飲食



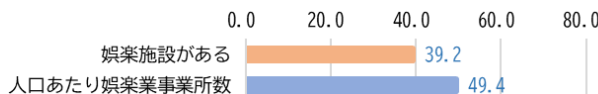
③住宅環境



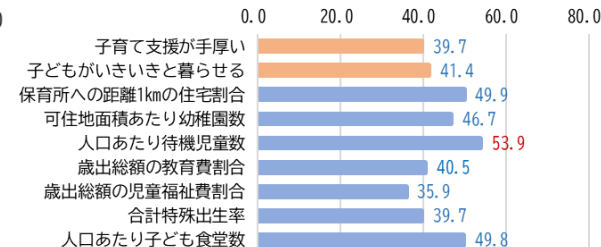
④移動・交通



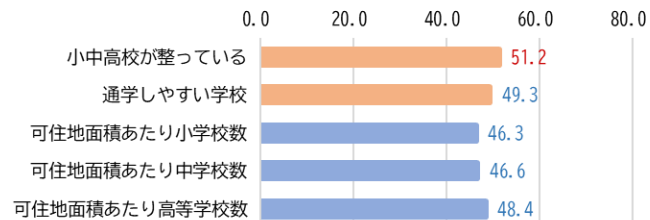
⑤遊び・娯楽



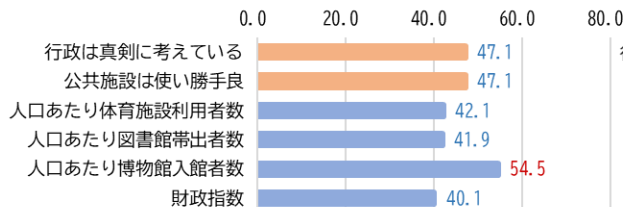
⑥子育て



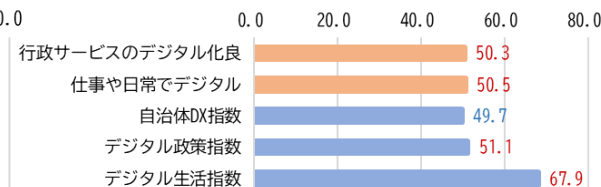
⑦初等・中等教育



⑧地域行政



⑨デジタル生活

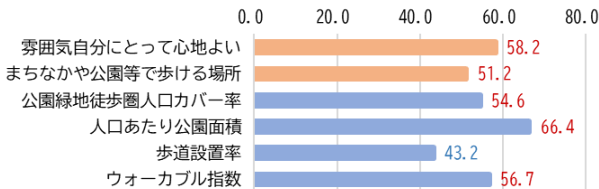


R6年度実施 Well-Being指標に関するアンケート調査結果

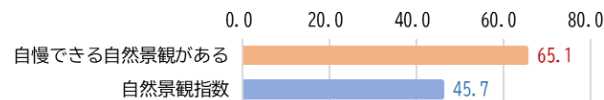
【函館市に関する主観・客観評価の詳細②】

主観指標
客観指標

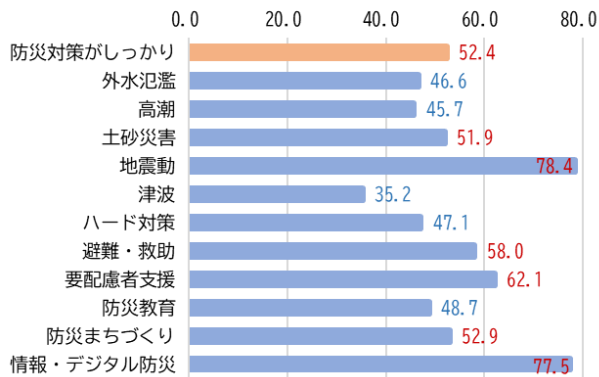
⑩公共空間



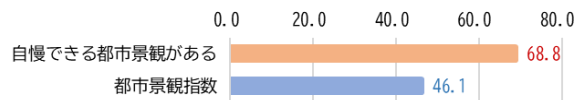
⑬自然景観



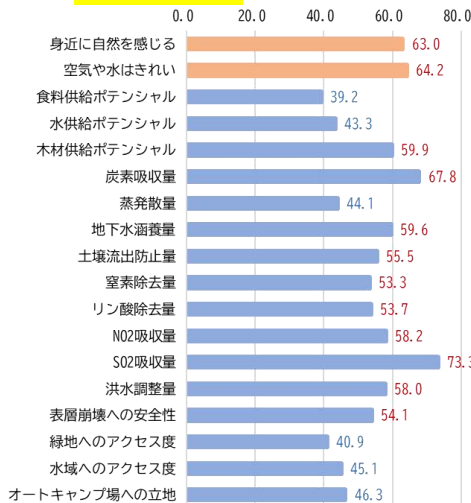
⑯自然災害



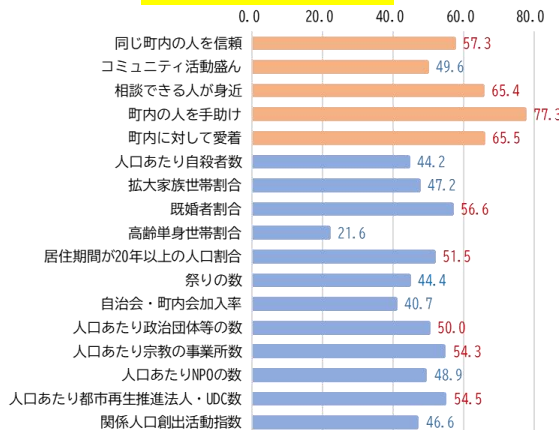
⑪都市景観



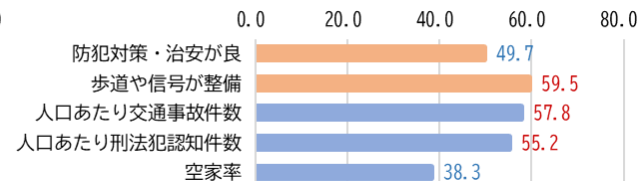
⑭自然の恵み



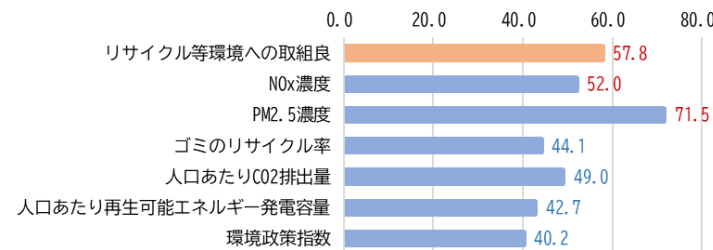
⑰地域とのつながり



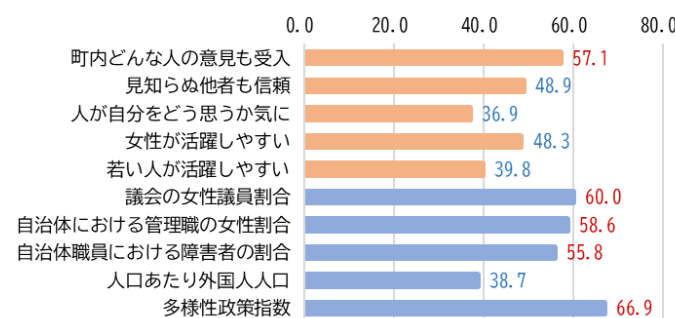
⑫事故・犯罪



⑮環境共生



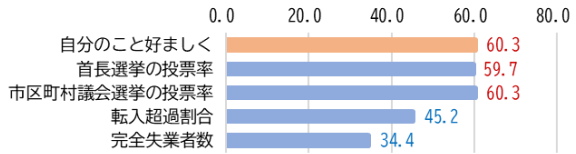
⑱多様性と寛容性



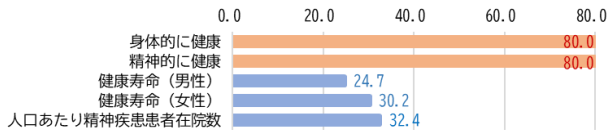
【函館市に関する主観・客観評価の詳細③】

主観指標
客観指標

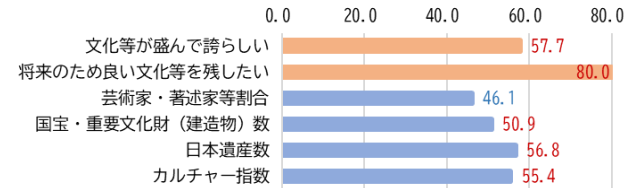
⑱ 自己効力感



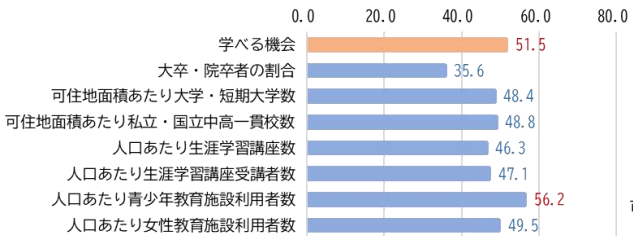
⑳ 健康状態



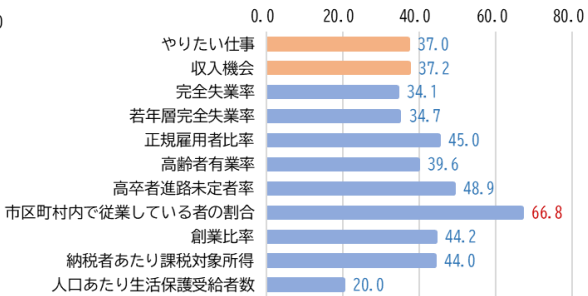
㉑ 文化・芸術



㉒ 教育機会の豊かさ



㉓ 雇用・所得



㉔ 事業創造

